

大学番号 私立67

設置年度 平成 30年度  
計画の区分： 学部の設置

認可

駒沢女子大学 看護学部 看護学科

## 【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 駒澤学園  
令和3年5月1日現在

### 作成担当者

担当部局（課）名 本部事務局長

職名・氏名 ヨシムラ 吉村 ケイタロウ 桂太郎

電話番号 042-331-1911

（夜間） 042-331-1911

e-mail [jimunurse@komaio.ac.jp](mailto:jimunurse@komaio.ac.jp)

- (注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
- 2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。  
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。  
例) 〇〇大学 △△学部 □□学科  
(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))  
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。  
例)  
・大学の設置の場合：「〇〇大学」  
・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」  
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」  
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」  
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」  
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」  
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」  
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」
- 3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和3年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

# 目次

## 看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	17
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	45
7. その他全般的事項	47

# 1 調査対象大学等の概要等

## (1) 設置者

学校法人駒澤学園

## (2) 大学名

駒沢女子大学

## (3) 調査対象大学等の位置

〒206-8511  
東京都稲城市坂浜238番地

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を( )書きで記入してください。  
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

## (4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(ミツダ マサヨシ) 光田 督良 (平成28年6月)		
学長	(ミツダ マサヨシ) 光田 督良 (平成23年4月)	(アンドウ ヨシノリ) 安藤 嘉則 (令和2年4月)	任期満了の為 令和2年4月1日 (2)
学部長	(トヨダ トシエ) 豊田 淑恵 (平成30年4月)		
学科主任		(コバヤシ サユリ) 小林 小百合 (平成30年4月)	学科運営強化の為 平成30年4月1日 (30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を( )書きで記入してください。  
(例) 令和2年度に報告済の内容 → (2)  
令和3年度に報告する内容 → (3)  
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。  
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。  
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載してください。その場合別ファイルを作成し提出してください。
- ・ 様式は、平成29年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合（令和2年度までの5年間）ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。（修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。）
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員		
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	80人	— 年次 — 人	320人		

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を( )書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	80 (—) [—]	— (—) [—]	1.01倍	一倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	579 (—) [—]	— (—) [—]	372 (—) [—]	— (—) [—]	381 (—) [—]	— (—) [—]	382 (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	551 (—) [—]	— (—) [—]	358 (—) [—]	— (—) [—]	362 (—) [—]	— (—) [—]	376 (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	172 (—) [—]	— (—) [—]	172 (—) [—]	— (—) [—]	168 (—) [—]	— (—) [—]	173 (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	90 (—) [—]	— (—) [—]	78 (—) [—]	— (—) [—]	88 (—) [—]	— (—) [—]	68 (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—		1.12		0.97		1.10		0.85				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ ( ) 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [ ] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度（令和3年度）から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	88 [—] (—)	— [—] (—)	77 [—] (—)	— [—] (—)	88 [—] (—)	— [—] (—)	68 [—] (—)	— [—] (—)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	88 [—] (—)	— [—] (—)	75 [—] (—)	— [—] (—)	87 [—] (—)	— [—] (—)	
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	87 [—] (—)	— [—] (—)	72 [—] (—)
4年次	/				— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	87 [—] (—)
計			— [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	88 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	165 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	250 [ — ] ( — )	— [ — ] ( — )	314 [ — ] ( — )

・令和3年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ [ ]内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
  - ・ ( )内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
  - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
  - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
  - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[ ]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成29年度	— 人	— 人	平成29年度	— 人	— 人	
平成30年度	90 人	0 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	0 人	— 人	
令和元年度	166 人	2 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	2 人	— 人	学生個人の心身に関する事情(1名)、その他(1名)
			令和元年度	0 人	— 人	
令和2年度	251 人	3 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	1 人	— 人	その他(1名)
			令和元年度	2 人	— 人	他の教育機関への入学・転学(1名)、その他(1名)
			令和2年度	0 人	— 人	
令和3年度	314 人	5 人	平成29年度	— 人	— 人	
			平成30年度	0 人	— 人	
			令和元年度	4 人	— 人	学生個人の心身に関する事情(1名)、その他(3名)
			令和2年度	1 人	— 人	就学意欲の低下(1名)
			令和3年度	0 人	— 人	
合計		10 人		10 人	— 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。  
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学  
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{90} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{2}{166} = \boxed{1.2} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{3}{251} = \boxed{1.19} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{314} = \boxed{1.59} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後		2		1							
	倫理学	1前		2								兼1	
	心理学	1前		2								兼1	
	教育学	1後		2								兼1	
	社会学	1後		2								兼1	
	憲法	1前		2								兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前		2								兼1	
	文化人類学	2前		2								兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前		2								兼1	
	統計学	1前		1								兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼3
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼3
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼3
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼1
言語表現演習Ⅰ		2前	1									兼1	
言語表現演習Ⅱ		2後		1								兼1	
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前		1								兼1
	スポーツⅡ	1後		1								兼1	
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			11	5	9	3	0			
	基礎ゼミⅡ	1後	1			11	5	9	3	0			
小計(26科目)			—	13	25	0	11	5	9	3	0	兼19	
専門基礎科目	発達心理学	2前		2								兼1	
	臨床心理学	3前		2								兼1	
	人間関係論	3前	1				1	1					
	公衆衛生学	3前	1									兼2	
	健康教育学	2後		2		1							
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼1	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後		2								兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2									兼1	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼2
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼4
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼3
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼2
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼3
		疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1									兼1
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	1	1	0	0	兼26	

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後		2		1							
	倫理学	1前		2								兼1	
	心理学	1前		2								兼1	
	教育学	1後		2								兼1	
	社会学	1後		2								兼1	
	憲法	1前		2								兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前		2								兼1	
	文化人類学	2前		2								兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前		2								兼1	
	統計学	1前		1								兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼2
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼2
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼2
言語表現演習Ⅰ		2前	1									兼2	
言語表現演習Ⅱ		2後		1								兼1	
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前		1								兼1
	スポーツⅡ	1後		1								兼1	
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1					8	0	3	3	3	
	基礎ゼミⅡ	1後	1					8	0	3	3	3	
小計(26科目)			—	13	25	0		9	0	3	3	3	兼20
専門基礎科目	発達心理学	2前		2								兼1	
	臨床心理学	3前		2								兼1	
	人間関係論	3前	1					1	1				
	公衆衛生学	3前	1									兼2	
	健康教育学	2後		2		1							
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼2	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後		2								兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2						1			兼3	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼1
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼13
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼7
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼8
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼1
		疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1									兼8
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	2	1	0	0	兼50	

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の基本	看護学概論	1前	1			1						
	看護理論	2前	1			4	0	1				
	看護援助論	1通	2			2	0	2			1	
	生活援助技術	1通	2			2	0	2			1	
	フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2			1	
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2			1	
	看護過程	2後	1			1	0	2			1	
	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
	母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
ライフステージと看護	小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
	小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	1			
	成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			2						
	成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			2	2	2	1			
	成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			2	2	2	1			
	老年看護学Ⅰ	2前	2			1						
	老年看護学Ⅱ	3前	2			1		1	2			
	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2				
看護の統合	在宅看護学Ⅰ	2後	2			1						兼1
	在宅看護学Ⅱ	3前	2			2			1			
	地域看護学概論	1後	1									兼1
	公衆衛生看護学概論	4前		1			1	0	1			
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
	公衆衛生看護技術論	4前		2			1	0	2			兼1
	学校保健活動論	3前		1								兼1
	産業保健活動論	3前		1			1					
	公衆衛生看護管理論	4後		1			1	0	2			
	家族看護学	4後		1								兼1
	感染看護学	2前		1			1					
	健康と食事	3前		1				0	1			兼2
	チーム医療	4後		1		10	5	9	7			
医療安全	4後		1								兼1	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	0	2		2		
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	0	2		2		
	母性看護学実習	3後～4前	2			2	1	1				
	小児看護学実習	3後～4前	2			1	1	1	1			
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3			1		1	1	1		
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3			1	2	1				
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	2			
	老年看護学実習Ⅱ	3後～4前	3			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2				0	2		1		
	在宅看護学実習	3後～4前	2			2			1	1		
	看護学統合実習	4前	2			10	5	9	7			
	学校・産業保健実習	4後		2			1	0	2			
	公衆衛生看護学実習	4後		3			1	0	2			
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3
	国際保健	4後		2			1					
	災害看護学	4後		2								兼1
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0			
	看護研究Ⅱ	4通	2			10	5	9	3			
小計(50科目)	—	69	17	0	10	5	9	7	2		兼10	
合計(97科目)	—	109	50	0	11	5	9	7	2		兼55	
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。</li> <li>・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。</li> <li>・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。</li> <li>・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。</li> <li>・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)</li> </ul>												

【令和3年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の基本	看護学概論	1前	1			2						
	看護理論	2前	1			4	0	1				
	看護援助論	1通	2			2	0	2			2	兼1
	生活援助技術	1通	2			2	0	2			2	兼1
	フィジカルアセスメント	2前	1			2	0	2			2	兼1
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2			2	兼1
	看護過程	2後	1			2	0	2			2	兼1
	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
	母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
ライフステージと看護	小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
	小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	0			
	成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			1						
	成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			1	3	1	1			
	成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			1	3	1	1			
	老年看護学Ⅰ	2前	2			1						
	老年看護学Ⅱ	3前	2			1		1	2			
	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2	1			
看護の統合	在宅看護学Ⅰ	2後	2				1	1				
	在宅看護学Ⅱ	3前	2				1	1	0			
	地域看護学概論	1後	1				1					兼0
	公衆衛生看護学概論	4前		1			1	0	0			
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
	公衆衛生看護技術論	4前		2			1	0	0			兼1
	学校保健活動論	3前		1								兼1
	産業保健活動論	3前		1			1					
	公衆衛生看護管理論	4後		1			1	0	0			
	家族看護学	4前		1								兼2
	感染看護学	2前		1								
	健康と食事	3前		1				0	1			兼3
	チーム医療	4後		1		9	6	9	5			
医療安全	4後		1								兼1	
臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			3	0	9	4	3		兼1
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			3	0	9	4	3		兼1
	母性看護学実習	3後～4前	2			2	1	1				兼1
	小児看護学実習	3後～4前	2			1	1	1	0	2		兼1
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3			1	3	1	1	2		
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3			1	3	1	1	1		兼1
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	3	4		兼2
	老年看護学実習Ⅱ	3後～4前	3			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2				0	2	1	1		
	在宅看護学実習	3後～4前	2				1		1	0	1	
	看護学統合実習	4前	2			9	6	9	5			
	学校・産業保健実習	4後		2			1	0	1			
	公衆衛生看護学実習	4後		3			1	0	1			
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3
	国際保健	4後		2			1					
	災害看護学	4後		2								兼1
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0			
	看護研究Ⅱ	4通	2			9	6	9	3			
小計(50科目)	—	69	17	0	9	6	9	5	4		兼12	
合計(97科目)	—	109	50	0	10	6	9	5	4		兼81	
卒業要件及び履修方法												
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。</li> <li>・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。</li> <li>・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。</li> <li>・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。</li> <li>・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。</li> </ul>												
<ul style="list-style-type: none"> <li>* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)</li> </ul>												



【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後		2		1							
	倫理学	1前		2								兼1	
	心理学	1前		2								兼1	
	教育学	1後		2								兼1	
	社会学	1後		2								兼1	
	憲法	1前		2								兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前		2								兼1	
	文化人類学	2前		2								兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前										兼1	
	統計学	1前		1								兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼3
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼1
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼2
言語表現演習Ⅰ		2前	1									兼2	
言語表現演習Ⅱ		2後		1								兼1	
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前		1								兼1
	スポーツⅡ	1後		1								兼1	
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			7	5	6	3	3			
	基礎ゼミⅡ	1後	1			7	5	6	4	3			
小計(26科目)			—	13	25	0	7	5	6	4	3	兼21	
健康と生活	発達心理学	2前		2								兼1	
	臨床心理学	3前		2								兼1	
	人間関係論	3前	1				1	1					
	公衆衛生学	3前	1									兼2	
	健康教育学	2後		2		1							
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼1	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後		2								兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2									兼1	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
臨床薬理学		1後	2									兼1	
臨床病態学		2前	1									兼1	
微生物学		1前	2									兼2	
疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		1後	2									兼14	
疾病と治療Ⅱ(内科総論・臓器別疾患)		2前	2									兼8	
疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		2後	2									兼7	
疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼3		
疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1									兼1		
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	1	1	0	0	兼44	
看護の基本	看護学概論	1前	1			1							
	看護理論	2前	1			4	0	1					
	看護援助論	1通	2			2	0	2		3	兼1		
	生活援助技術	1通	2			2	0	2		3	兼1		
	フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2		1			
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2		1			
	看護過程	2後	1			1	0	2		1			

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任			
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1								
	仏教学Ⅱ	1後		2		1								
	倫理学	1前		2								兼1		
	心理学	1前		2								兼1		
	教育学	1後		2								兼1		
	社会学	1後		2								兼1		
	憲法	1前		2								兼1		
	人間と思想	1前	2									兼1		
	文学への誘い	1前		2								兼1		
	文化人類学	2前		2								兼1		
	生命倫理と法	2後	2									兼1		
	基礎科学	1前										兼1		
	統計学	1前		1								兼1		
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2	
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2	
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼2	
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼2	
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1	
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1	
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼2	
言語表現演習Ⅰ		2前	1									兼2		
言語表現演習Ⅱ		2後		1								兼1		
スポーツと健康		スポーツⅠ	1前		1								兼1	
	スポーツⅡ	1後		1								兼1		
基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1						11	6	8	4	4	
	基礎ゼミⅡ	1後	1						11	6	8	6	4	
小計(26科目)			—	13	25	0			11	6	8	6	4	兼20
健康と生活	発達心理学	2前		2									兼1	
	臨床心理学	3前		2									兼1	
	人間関係論	3前	1						1	1				
	公衆衛生学	3前	1										兼2	
	健康教育学	2後		2					1					
	疫学/保健統計Ⅰ	2後	2										兼2	
	疫学/保健統計Ⅱ	4後		2									兼1	
	保健医療福祉行政論	2前	2							1			兼3	
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1										兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2										兼1
		生化学	1後	2										兼1
		臨床栄養学	2前	2										兼1
臨床薬理学		1後	2										兼1	
臨床病態学		2前	1										兼1	
微生物学		1前	2										兼2	
疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		1後	2										兼13	
疾病と治療Ⅱ(内科総論・臓器別疾患)		2前	2										兼8	
疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		2後	2										兼7	
疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1										兼2		
疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1										兼8		
疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1										兼1		
小計(21科目)			—	27	8	0	1	2	1	0	0	0	兼51	
看護の基本	看護学概論	1前	1			1								
	看護理論	2前	1			4	0	1						
	看護援助論	1通	2			2	0	2		3	兼1			
	生活援助技術	1通	2			2	0	2		3	兼1			
	フィジカルアセスメント	2前	1			1	0	2		1				
	診療・治療援助技術	2前	2			2	0	2		2			兼1	
	看護過程	2後	1			1	0	2		1			兼1	

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
	母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
	小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
	小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	1			
	成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			2						
	成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			2	3	1	1			
	成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			2	3	1	1			
	老年看護学Ⅰ	2前	2			1				1		
	老年看護学Ⅱ	3前	2			1			1	2		
	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2				
	在宅看護学Ⅰ	2後	2			1						
	在宅看護学Ⅱ	3前	2			2				1		兼1
	地域看護学概論	1後	1									
	公衆衛生看護学概論	4前		1			1	0	1			
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
	公衆衛生看護技術論	4前		2			1	0	2			
	学校保健活動論	3前		1								兼1
	産業保健活動論	3前		1			1					
公衆衛生看護管理論	4後		1			1	0	2				
家族看護学	4後		1								兼1	
感染看護学	2前	1			1							
健康と食事	3前	1					0	1			兼2	
チーム医療	4後		1		10	6	8	7				
医療安全	4後	1									兼1	
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			2	0	2			3	兼2
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	0	2				
	母性看護学実習	3後～4前	2			2	1	1				
	小児看護学実習	3後～4前	2			1	1	1	1			
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3			1	1	0	1	1		
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3			1	2	1				
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	2			
	老年看護学実習Ⅱ	3後～4前	3			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2				0	2		1		
	在宅看護学実習	3後～4前	2			2				1	1	
	看護学統合実習	4前	2			10	6	8	7			
学校・産業保健実習	4後		2			1	0	2				
公衆衛生看護学実習	4後		3			1	0	2				
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3
	国際保健	4後		2			1					
	災害看護学	4後		2								兼1
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0			
看護研究Ⅱ	4通	2			10	6	8	3				
小計(50科目)			69	17	0	10	6	8	7	3		兼12
合計(97科目)			109	50	0	11	6	8	7	3		兼77

卒業要件及び履修方法

- ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。
- ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。
- ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。
- ・卒業要件: 単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。
- ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。

\* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
	母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
	小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
	小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	1			
	成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			2						
	成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			2	3	1	1			
	成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			2	3	1	1			
	老年看護学Ⅰ	2前	2			1				1		
	老年看護学Ⅱ	3前	2			1			1	2		
	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
	精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2				
	在宅看護学Ⅰ	2後	2			1						
	在宅看護学Ⅱ	3前	2			2				1		
	地域看護学概論	1後	1									兼0
	公衆衛生看護学概論	4前		1			1	0	1			
	地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
	公衆衛生看護技術論	4前		2			1	0	1			兼1
	学校保健活動論	3前		1								
	産業保健活動論	3前		1			1					
公衆衛生看護管理論	4後		1			1	0	1			兼1	
家族看護学	4後		1								兼1	
感染看護学	2前	1			1							
健康と食事	3前	1					0	1			兼2	
チーム医療	4後		1		10	6	8	7				
医療安全	4後	1									兼1	
臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ(未開講)	1後	1			2	0	2		2	2	兼1
	基礎看護学実習Ⅱ	2後	2			2	0	2		5	1	兼1
	母性看護学実習	3後～4前	2			2	1	1				
	小児看護学実習	3後～4前	2			1	1	1	1			
	成人看護学急性期実習	3後～4前	3			1	1	0	1	1		
	成人看護学慢性期実習	3後～4前	3			1	2	1				
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1		1	2	3		
	老年看護学実習Ⅱ	3後～4前	3			1		1	2			
	精神看護学実習	3後～4前	2				0	2		1		
	在宅看護学実習	3後～4前	2			2				1	1	
	看護学統合実習	4前	2			10	6	8	7			
学校・産業保健実習	4後		2			1	0	1				
公衆衛生看護学実習	4後		3			1	0	1				
看護の発展	看護管理学	4後	1									兼3
	国際保健	4後		2				1				
	災害看護学	4後		2								兼1
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0			
看護研究Ⅱ	4通	2			10	6	8	3				
小計(50科目)			69	17	0	10	6	8	7	3		兼10
合計(97科目)			109	50	0	11	6	8	7	3		兼81

卒業要件及び履修方法

- ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。
- ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。
- ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。
- ・卒業要件: 単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。
- ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。

\* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養教育科目	仏教学Ⅰ	1前	2			1							
	仏教学Ⅱ	1後		2		1							
	倫理学	1前		2								兼1	
	心理学	1前		2								兼1	
	教育学	1後		2								兼1	
	社会学	1後		2								兼1	
	憲法	1前		2								兼1	
	人間と思想	1前	2									兼1	
	文学への誘い	1前		2								兼1	
	文化人類学	2前		2								兼1	
	生命倫理と法	2後	2									兼1	
	基礎科学	1前		2								兼1	
	統計学	1前		1								兼1	
	コミュニケーションの理解と技能	英語Ⅰ(リーディング)	1前	1									兼2
		英語Ⅱ(ライティング)	1後	1									兼2
		英語Ⅲ(リスニング)	2前	1									兼2
		英語Ⅳ(看護のための英会話)	2後	1									兼2
		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1								兼1
		基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1								兼1
		情報と科学/情報処理	1前		1								兼2
		言語表現演習Ⅰ	2前	1									兼2
		言語表現演習Ⅱ	2後		1								兼1
		スポーツと健康	スポーツⅠ	1前		1							
	スポーツⅡ		1後		1								兼1
	基礎ゼミ	基礎ゼミⅠ	1前	1			9	2	2	1	0		
		基礎ゼミⅡ	1後	1			9	2	2	1	0		
小計(26科目)			—	13	25	0	10	2	2	1	0	兼19	
専門基礎科目	健康と生活	発達心理学	2前		2								兼1
		臨床心理学	3前		2								兼1
		人間関係論	3前	1				1	1				
		公衆衛生学	3前	1									兼2
		健康教育学	2後		2		1						
		疫学/保健統計Ⅰ	2後	2									兼2
		疫学/保健統計Ⅱ	4後		2								兼1
		保健医療福祉行政論	2前	2				1					兼3
	健康と医療	人体の構造と機能Ⅰ	1前	1									兼1
		人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1
		生化学	1後	2									兼1
		臨床栄養学	2前	2									兼1
		臨床薬理学	1後	2									兼1
		臨床病態学	2前	1									兼1
		微生物学	1前	2									兼1
		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)	1後	2									兼13
		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)	2前	2									兼7
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	2後	2									兼8
		疾病と治療Ⅳ(母性)	2前	1									兼1
		疾病と治療Ⅴ(小児)	2前	1									兼8
		疾病と治療Ⅵ(精神障害)	2後	1									兼1
小計(21科目)			—	27	8	0	1	2	1	0	0	兼51	

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	看護学概論	1前	1			2							
	看護理論	2前	1			4	0	1					
	看護援助論	1通	2			3	0	2			2	兼1	
	生活援助技術	1通	2			3	0	2			2	兼1	
	フィジカルアセスメント	2前	1			2	0	2			2	兼1	
	診療・治療援助技術	2前	2			3	0	2			2	兼1	
	看護過程	2後	1			2	0	2			2	兼1	
	ライフステージと看護	母性看護学Ⅰ	2後	2			1						
		母性看護学Ⅱ	3前	2			2	1	1				
		小児看護学Ⅰ	2後	2			1						
		小児看護学Ⅱ	3前	2			1	1	1	1			
		成人看護学Ⅰ(概論)	2前	2			2						
		成人看護学Ⅱ(急性期)	2後	2			2	3	1	0			
		成人看護学Ⅲ(慢性期)	3前	2			2	3	1	0			
		老年看護学Ⅰ	2前	2			1						
	老年看護学Ⅱ	3前	2			1		1	2				
	看護の統合	精神看護学Ⅰ	2後	2				0	1				
		精神看護学Ⅱ	3前	2				0	2	1			
		在宅看護学Ⅰ	2後	2			1		1				
		在宅看護学Ⅱ	3前	2			1		1	1			
		地域看護学概論	1後	1				1					兼0
		公衆衛生看護学概論	4前		1			1	0	1			
		地域看護活動論	3前	2			3	1	1				
		公衆衛生看護技術論	4前		2			1	0	1			
		学校保健活動論	3前		1								兼1
		産業保健活動論	3前		1			1					
		公衆衛生看護管理論	4後		1			1	0	1			
		家族看護学	4後		1								兼1
		感染看護学	2前	1			1						
	健康と食事	3前	1					0	1			兼3	
	チーム医療	4後		1		10	6	9	6				
	医療安全	4後	1									兼1	
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅰ	1後	1			3	0	9	6	2		兼1
基礎看護学実習Ⅱ		2後	2			3	0	9	6	2		兼1	
母性看護学実習		3後～4前	2			2	1	1					
小児看護学実習		3後～4前	2			1	1	1	1				
成人看護学急性期実習		3後～4前	3			2	3	1	0	2			
成人看護学慢性期実習		3後～4前	3			2	3	1		2			
老年看護学実習Ⅰ		2前	1			1		1	5	2			
老年看護学実習Ⅱ		3後～4前	3			1		1	2				
精神看護学実習		3後～4前	2				0	2	1	1			
在宅看護学実習		3後～4前	2			1		1	1	0			
看護学統合実習		4前	2			10	6	9	6				
学校・産業保健実習		4後		2			1	0	1				
公衆衛生看護学実習	4後		3			1	0	1					
看護の発展	看護管理論	4後	1									兼3	
	国際保健	4後		2			1						
	災害看護学	4後		2								兼1	
	看護研究Ⅰ	3後	1			6	0	0	0				
	看護研究Ⅱ	4通	2			10	6	9	6				
小計(50科目)	—	69	17	0	10	6	9	6	2		兼11		
合計(97科目)	—	109	50	0	11	6	9	6	2		兼81		

卒業要件及び履修方法

- ・教養教育科目(26科目):22単位以上(必修13単位、選択9単位以上)を修得すること。
- ・専門基礎科目(21科目):31単位以上(必修27単位、選択4単位以上)を修得すること。
- ・専門科目(50科目):75単位以上(必修69単位、選択6単位以上)を修得すること。
- ・卒業要件:単位合計128単位以上(必修109単位、選択19単位以上)を修得すること。
- ・履修科目の登録の上限:一学年において履修できる単位数は48単位以下とする。

\* 保健師国家試験受験資格取得には卒業要件を満たし、教養教育科目から「憲法」「統計学」「情報と科学/情報処理」「スポーツⅠ」「スポーツⅡ」の5科目、専門基礎科目から「健康教育学」「疫学/保健統計Ⅱ」の2科目、専門科目から「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」「学校保健活動論」「産業保健活動論」「公衆衛生看護管理論」「家族看護学」「学校・産業保健実習」「公衆衛生看護学実習」「災害看護学」の9科目を修得すること。(単位数合計137単位以上)

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
  - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
  - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
  - ・ 不要な年度(令和元年度開設であれば平成30年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。

(1) ②授業科目表に関する変更内容

**【平成30年度】**

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・情報と科学/情報処理：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：専任教員の就任辞退及び、平成30年度に着任した専任教員のみでの実施の為、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」に修正し、更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手3」に変更した。
- ・基礎ゼミⅡ：専任教員の就任辞退及び、平成30年度に着任した専任教員のみでの実施の為、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」、助教「3」→「4」に変更。更に演習補助として助手の配置を「助手0」→「助手3」に変更した。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、教授「11」→「7」、講師「9」→「6」、助教「3」→「4」、助手「0」→「3」、兼19」→「兼21」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼14」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼7」に変更。
- ・専門基礎科目小計：上記理由により、「兼26」→「兼44」に変更。
- ・看護援助論：授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を「助手1」→「助手3」、「兼0」→「兼1」に変更。
- ・成人看護学Ⅱ：教員就任辞退の理由により、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・成人看護学Ⅲ：教員就任辞退の理由により、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・チーム医療：教員就任辞退の理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、助手及び兼任助手の配置を助手「2」→「3」、「兼0」→「兼2」に変更。
- ・成人看護学急性期実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「0」→「1」、講師「1」→「0」に変更。
- ・看護学統合実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更。
- ・看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更。
- ・専門科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」、「兼10」→「兼12」に変更。
- ・合計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」、「兼55」→「兼77」に変更。

**【令和元年度】**

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅲ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任・兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅳ：円滑な講義を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・情報と科学/情報処理：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：円滑な講義・演習を図る為、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「3」→「4」、助手「0」→「4」に変更。
- ・基礎ゼミⅡ：円滑な講義・演習を図る為、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「3」→「6」、助手「0」→「4」に変更。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「3」→「6」、助手「0」→「4」、「兼19」→「兼20」に変更。
- ・疫学/保健統計Ⅰ：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・保健医療福祉行政論：兼任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「0」→「1」に変更し、更に授業内容の充実を図る為、兼任教員を「兼1」→「兼3」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼13」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼7」に変更。
- ・疾病と治療Ⅳ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・疾病と治療Ⅴ：授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼8」に変更。
- ・専門基礎科目小計：上記理由により、准教授「1」→「2」、「兼26」→「兼51」に変更。
- ・看護援助論：授業内容の充実を図る為、「助手1」→「助手3」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、「助手1」→「助手3」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・フィジカルアセスメント：演習の円滑・安全な実施を図る為、「助手1」→「助手3」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・診療・治療援助技術：演習の円滑・安全な実施を図る為、「助手1」→「助手3」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・看護過程：授業内容の充実を図る為、「助手1」→「助手3」、「兼なし」→「兼1」に変更。

- ・成人看護学Ⅱ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・成人看護学Ⅲ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・地域看護学概論：保健師教育課程の基礎となる科目の為、専任教員に担当を交代し、准教授「0」→「1」、「兼1」→「兼0」に変更。
- ・公衆衛生看護技術論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・公衆衛生看護管理論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・チーム医療：教員辞任により専任教員を追加申請した為、専任教員の配置を准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「7」→「6」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、助教「0」→「2」、「兼なし」→「兼1」に変更。※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、講師「2」→「5」、助教「0」→「1」、「兼なし」→「兼1」に変更。※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・成人看護学急性期実習：教員辞任及び、実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を准教授「なし」→「1」、講師「1」→「0」に変更。
- ・老年看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施を図る為、助手「なし」→「3」に変更。
- ・看護学統合実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助教「7」→「6」に変更。
- ・学校・産業保健実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・公衆衛生看護学実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員を追加申請した上で、教員配置を、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」に変更。
- ・専門科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」に変更。
- ・合計：上記理由により、准教授「5」→「6」、講師「9」→「8」、助手「2」→「3」、「兼55」→「兼81」に変更。

## 【令和2年度】

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅲ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任・兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅳ：円滑な講義を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・情報と科学/情報処理：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：円滑な講義・演習を図る為、ゼミのグループ編成を教授を中心とした1グループ1教員の配置に見直し、教授「11」→「8」、准教授「5」→「2」、講師「9」→「2」、助教「3」→「1」に変更。
- ・基礎ゼミⅡ：円滑な講義・演習を図る為、ゼミのグループ編成を教授を中心とした1グループ1教員の配置に見直し、教授「11」→「8」、准教授「5」→「2」、講師「9」→「2」、助教「3」→「1」に変更。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、教授「11」→「10」、准教授「5」→「2」、講師「9」→「2」、助教「3」→「1」に変更。
- ・疫学/保健統計Ⅰ：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・保健医療福祉行政論：兼任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「0」→「1」に変更し、更に授業内容の充実を図る為、兼任教員を「兼1」→「兼3」に変更。
- ・微生物学：兼任教員辞任により、「兼2」→「兼1」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼13」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼7」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅳ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼1」に変更。
- ・疾病と治療Ⅴ：授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼8」に変更。
- ・専門基礎科目小計：上記理由により、准教授「1」→「2」、「兼26」→「兼51」に変更。
- ・看護学概論：授業内容の充実を図る為、教授「1」→「2」に変更。
- ・看護援助論：授業内容の充実を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・フィジカルアセスメント：演習の円滑・安全な実施を図る為、教授「1」→「2」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・診療・治療援助技術：演習の円滑・安全な実施を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・看護過程：授業内容の充実を図る為、教授「1」→「2」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・成人看護学Ⅱ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」、助教「1」→「0」に変更。
- ・成人看護学Ⅲ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」、助教「1」→「0」に変更。
- ・精神看護学Ⅱ：教員追加により、助教「0」→「1」に変更。
- ・在宅看護学Ⅰ：教育内容の充実を図る為、講師「0」→「1」に変更。

- ・在宅看護学Ⅱ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、教授「2」→「1」、講師「0」→「1」に変更。
- ・地域看護学概論：保健師教育課程の基礎となる科目の為、専任教員に担当を交代し、准教授「0」→「1」、「兼1」→「兼0」に変更。
- ・公衆衛生看護技術論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・公衆衛生看護管理論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・健康と食事：教育内容を充実させる為、兼「2」→「3」に変更。
- ・チーム医療：教員辞任により専任教員を追加申請した為、専任教員の配置を准教授「5」→「6」、助教「7」→「6」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：教授の新規追加及び、領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、教授「2」→「3」、講師「2」→「9」、助教「0」→「6」、「兼なし」→「兼1」に変更。  
※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：教授の新規追加及び、領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、教授「2」→「3」、講師「2」→「9」、助教「0」→「6」、「兼なし」→「兼1」に変更。  
※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・成人看護学急性期実習：教員辞任及び、実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を教授「1」→「2」、准教授「0」→「3」、助教「1」→「0」、助手「1」→「2」に変更。
- ・成人看護学慢性期実習：教員辞任及び、実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を教授「1」→「2」、准教授「2」→「3」、助手「0」→「2」に変更。
- ・老年看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施を図る為、専任教員を追加申請した上で、助教「2」→「5」、助手「なし」→「2」、「兼なし」→「兼2」に変更。
- ・精神看護学実習：実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を、助教「なし」→「1」に変更。
- ・在宅看護学実習：教員辞任により専任教員を追加申請し、教授「2」→「1」、講師「なし」→「1」に変更。
- ・看護学統合実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「5」→「6」、助教「7」→「6」に変更。
- ・学校・産業保健実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・公衆衛生看護学実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員を追加申請した上で、教員配置を准教授「5」→「6」、助教「3」→「6」に変更。
- ・専門科目小計：上記理由により、准教授「5」→「6」、助教「7」→「6」、「兼10」→「兼11」に変更。
- ・合計：上記理由により、准教授「5」→「6」、助教「7」→「6」、「兼55」→「兼81」に変更。

### 【令和3年度】

- ・英語Ⅰ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅱ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅲ：兼任教員の配置転換等の理由により、兼任・兼任教員の配置を「兼3」→「兼2」に変更。
- ・英語Ⅳ：円滑な講義を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・情報と科学/情報処理：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・言語表現演習Ⅰ：授業内容の充実を図る為、兼任・兼任教員等の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・基礎ゼミⅠ：円滑な講義・演習を図る為、ゼミのグループ編成を教授を中心とした1グループ1教員の配置に見直し、教授「11」→「8」、准教授「5」→「0」、講師「9」→「3」、助手「0」→「3」に変更。
- ・基礎ゼミⅡ：円滑な講義・演習を図る為、ゼミのグループ編成を教授を中心とした1グループ1教員の配置に見直し、教授「11」→「8」、准教授「5」→「0」、講師「9」→「3」、助手「0」→「3」に変更。
- ・教養教育科目小計：上記理由により、教授「11」→「9」、准教授「5」→「0」、講師「9」→「3」、助手「0」→「3」、「兼19」→「兼20」に変更。
- ・疫学/保健統計Ⅰ：2クラス開講に変更した為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼2」に変更。
- ・保健医療福祉行政論：兼任教員の就任辞退の理由により専任教員の配置を、准教授「0」→「1」に変更し、更に授業内容の充実を図る為、兼任教員を「兼1」→「兼3」に変更。
- ・微生物学：兼任教員辞任により、「兼2」→「兼1」に変更。
- ・疾病と治療Ⅰ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼4」→「兼13」に変更。
- ・疾病と治療Ⅱ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼7」に変更。
- ・疾病と治療Ⅲ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼2」→「兼8」に変更。
- ・疾病と治療Ⅳ：兼任教員の変更及び授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼3」→「兼1」に変更。
- ・疾病と治療Ⅴ：授業内容の充実を図る為、兼任教員の配置を「兼1」→「兼8」に変更。
- ・専門基礎科目小計：上記理由により、准教授「1」→「2」、「兼26」→「兼50」に変更。
- ・看護学概論：授業内容の充実を図る為、教授「1」→「2」に変更。
- ・看護援助論：授業内容の充実を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・生活援助技術：演習の円滑・安全な実施と授業内容の充実を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・フィジカルアセスメント：演習の円滑・安全な実施を図る為、教授「1」→「2」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・診療・治療援助技術：演習の円滑・安全な実施を図る為、教授「2」→「3」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・看護過程：授業内容の充実を図る為、教授「1」→「2」、「助手1」→「助手2」、「兼なし」→「兼1」に変更。



- ・小児看護学Ⅱ：教員辞任により、助教「1」→「0」に変更。
- ・成人看護学Ⅰ：教員辞任により、教授「2」→「1」に変更。
- ・成人看護学Ⅱ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、教授「2」→「1」、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・成人看護学Ⅲ：教員辞任により専任教員を追加申請し専任教員の配置を、教授「2」→「1」、准教授「2」→「3」、講師「2」→「1」に変更。
- ・精神看護学Ⅱ：教員追加により、助教「0」→「1」に変更。
- ・在宅看護学Ⅰ：教員辞任により専任教員を追加申請した上で教員配置を、講師「0」→「1」に変更。
- ・在宅看護学Ⅱ：教員辞任により専任教員を追加申請した上で教員配置を、教授「2」→「1」、講師「0」→「1」、助教「1」→「0」に変更。
- ・地域看護学概論：保健師教育課程の基礎となる科目の為、専任教員に担当を交代し、准教授「0」→「1」、「兼1」→「兼0」に変更。
- ・公衆衛生看護概論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「1」→「0」に変更。
- ・公衆衛生看護技術論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「0」に変更。
- ・公衆衛生看護管理論：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「0」に変更。
- ・家族看護学：コロナ禍の影響を鑑みて、令和3年度のみ後期開講を前期に変更。また、教育内容を充実させる為、「兼1」→「兼2」に変更。
- ・健康と食事：教育内容を充実させる為、兼「2」→「3」に変更。
- ・チーム医療：教員辞任により専任教員を追加申請した為、専任教員の配置を教授「10」→「9」、准教授「5」→「6」、助教「7」→「5」に変更。
- ・基礎看護学実習Ⅰ：教授の新規追加及び、領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、教授「2」→「3」、講師「2」→「9」、助教「0」→「4」、助手「2」→「3」、「兼なし」→「兼1」に変更。  
※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・基礎看護学実習Ⅱ：教授の新規追加及び、領域間での看護技術教育の共通理解を深め教育内容を充実させる為、専任教員の配置を、教授「2」→「3」、講師「2」→「9」、助教「0」→「4」、助手「2」→「3」、「兼なし」→「兼1」に変更。  
※但し、領域外教員は選抜し担当する。
- ・母性看護学実習：実習の円滑・安全な実施を図る為、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・小児看護学実習：教員辞任及び実習の円滑・安全な実施を図る為、助教「1」→「0」、助手「なし」→「2」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・成人看護学急性期実習：教員辞任及び、実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を准教授「なし」→「3」、助手「1」→「2」に変更。
- ・成人看護学慢性期実習：教員辞任及び、実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を准教授「2」→「3」、助教「0」→「1」、助手「0」→「1」、「兼なし」→「兼1」に変更。
- ・老年看護学実習Ⅰ：実習の円滑・安全な実施を図る為、専任教員を追加申請した上で、助教「2」→「3」、助手「なし」→「4」、「兼なし」→「兼2」に変更。
- ・精神看護学実習：実習の円滑・安全な実施を図る為、教員の配置を、助教「なし」→「1」に変更。
- ・在宅看護学実習：教員辞任により専任教員を追加申請し、教授「2」→「1」、講師「なし」→「1」、助教「1」→「0」に変更。
- ・看護学統合実習：教員就任辞退の理由により専任教員の配置を、教授「10」→「9」、准教授「5」→「6」、助教「7」→「5」に変更。
- ・学校・産業保健実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・公衆衛生看護学実習：教員就任辞退により専任教員の配置を、助教「2」→「1」に変更。
- ・看護研究Ⅱ：教員就任辞退の理由により専任教員を追加申請した上で、教員配置を、教授「10」→「9」、准教授「5」→「6」に変更。
- ・専門科目小計：上記理由により、教授「10」→「9」、准教授「5」→「6」、助教「7」→「5」、助手「2」→「4」、「兼10」→「兼12」に変更。
- ・合計：上記理由により、教授「11」→「10」、准教授「5」→「6」、助教「7」→「5」、助手「2」→「4」、「兼55」→「兼81」に変更。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容(配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など)を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除してください。

## (2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
66 科目	31 科目	— 科目	97 科目	66 科目 [ — ]	31 科目 [ — ]	— 科目 [ — ]	97 科目 [ — ]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[ ]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1	基礎看護学実習Ⅰ	1	1後	—	必修	【令和元年度未開講科目】 令和元年度3月に予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、実習先から受け入れを断られた為。 代替措置：有

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
  - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

該当なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
  - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

<p>【基礎看護学実習Ⅰ／令和元年度未開講科目】 学生の履修への影響を最大限に配慮し、実習先と再度調整を行い、年度を跨いで2年次の夏休み期間に開講することにした為、影響は少なく抑えることができた。学生への周知は中止決定後、即日メールにて中止する旨を配信し、後日、改めて大学HP上にも学部長名による文書にて通知を行った。新年度のオリエンテーションでも直接説明する予定であったが中止となった為、大学ポータルサイト上に「単位履修の方法に関するオリエンテーション資料」を掲出し、改めて延期した実習を行う旨を説明した。令和2年度の報告時の予定通り、令和2年8月31日（月）～9月18日（金）内で3グループに分かれ2病院で実習を行い、当該科目を修了している。</p>
---

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{1}{97} = \boxed{1.03} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

### 3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校地等の一部は駒沢女子短期大学と共用		
	校舎敷地	1,867.94 m <sup>2</sup>	140,991.11 m <sup>2</sup>	8,771.79 m <sup>2</sup>	151,630.84 m <sup>2</sup>			
	運動場用地	0 m <sup>2</sup>	12,574.38 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	12,574.38 m <sup>2</sup>			
	小 計	1,867.94 m <sup>2</sup>	153,565.49 m <sup>2</sup>	8,771.79 m <sup>2</sup>	164,205.22 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	0 m <sup>2</sup>	36,595.26 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	36,595.26 m <sup>2</sup>			
	合 計	1,867.94 m <sup>2</sup>	190,160.75 m <sup>2</sup>	8,771.79 m <sup>2</sup>	200,800.48 m <sup>2</sup>			
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	校舎の一部は、駒沢女子短期大学と共用			
	4,279.81 m <sup>2</sup> ( 4,279.81 m <sup>2</sup> )	22,859.06 m <sup>2</sup> ( 22,859.06 m <sup>2</sup> )	19,797.95 m <sup>2</sup> ( 19,797.95 m <sup>2</sup> )	46,936.82 m <sup>2</sup> ( 46,936.82 m <sup>2</sup> )				
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	教室等の一部は、駒沢女子短期大学と共用		
	45 室	20 室	37 室	3 室 (補助職員 2人)	1 室 (補助職員 0人)			
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	看護学部 看護学科			32 室				
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を含む 図書 662冊 購入による変更のため (元) 購入による変更のため (2) 購入による変更のため (3)
	看護学部	5,136 [145] 4,861 [143] 4,523 [139] 4,048 [132]	55 [14] 49 [11] 38 [11]	4 [2] 4 [1]	207 190 153 125	5,306 5,281 5,194 5,094	272	
		(5,136 [145]) (4,861 [143]) (4,523 [139]) (4,048 [132])	( 55 [14]) ( 49 [11]) ( 38 [11])	( 4 [2]) ( 4 [1])	( 207 ) ( 190 ) ( 153 ) ( 125 )	5,306 5,281 5,194 (5,094)	( 272 )	
	計	5,136 [145] 4,861 [143] 4,523 [139] 4,048 [132]	55 [14] 49 [11] 38 [11]	4 [2] 4 [1]	207 190 153 125	5,306 5,281 5,194 5,094	272	
		(5,136 [145]) (4,861 [143]) (4,523 [139]) (4,048 [132])	( 55 [14]) ( 49 [11]) ( 38 [11])	( 4 [2]) ( 4 [1])	( 207 ) ( 190 ) ( 153 ) ( 125 )	5,306 5,281 5,194 (5,094)	( 272 )	
(6) 図 書 館	面 積	閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数		駒沢女子短期大学と共用		
	4,889 m <sup>2</sup>	300席		293,140冊				
(7) 体 育 館	面 積	体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要				駒沢女子短期大学と共用		
	1,726 m <sup>2</sup>	テニスコート 3面		屋外プール				
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当たり研究費等	360千円	360千円	図書購入費	21,894千円	2,500千円	
	共同研究費等	100千円	100千円	設備購入費	206,026千円	300千円	300千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,800千円	1,600千円	1,600千円	1,600千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
  - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
  - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。  
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
  - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。  
なお、昨年度の報告において見え消しした部分については、黒字で記入してください。
  - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	駒沢女子大学						学生募集停止学科数	5	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人文学部	4	-	-	-	-	-	-	-	平成5	-	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
日本文化学科	4	-	-	-	学士(日本文化)	-	-	-	平成5	東京都稲城市坂浜238番地	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
国際文化学科	4	-	-	-	学士(国際文化)	-	-	-	平成5	同上	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
人間関係学科	4	-	-	-	学士(人間関係)	-	-	-	平成12	同上	平成30年度より学生募集停止
心理学科	4	-	-	-	学士(心理学)	-	-	-	平成25	同上	平成30年度より学生募集停止
住空間デザイン学科	4	-	-	-	学士(住空間デザイン)	-	-	-	平成14	同上	平成30年度より学生募集停止
メディア表現学科	4	-	-	-	学士(メディア表現)	-	-	-	平成14	同上	平成30年度より学生募集停止(編入学は令和2年度より募集停止)
人間総合学群	4	370	3年次30	1,540	-	1.11	0.92	-	平成30	-	編入は、令和2年度より学生募集
人間文化学類	4	170	3年次20	720	学士(日本文化)(人間関係)(英語コミュニケーション)	1.07	0.85	-	平成30	東京都稲城市坂浜238番地	編入は、令和2年度より学生募集
観光文化学類		60	3年次10	260	学士(観光文化)	1.10	0.86	-	平成30	同上	編入は、令和2年度より学生募集
心理学類		80	-	320	学士(心理学)	1.14	0.91	-	平成30	同上	
住空間デザイン学類		60	-	240	学士(住空間デザイン)	1.17	1.20	-	平成30	同上	
人間健康学部		80	-	320	-	1.02	0.88	-	平成21	同上	
健康栄養学科		80	-	320	学士(健康栄養)			-	平成21	同上	
看護学部		80	-	320	-	1.01	0.85	-	平成30	同上	
看護学科		80	-	320	学士(看護学)			-	平成30	同上	
大学全体	-	530	30	2,180	-	-	-	-	-	-	
大学の名称	駒沢女子大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
	年	人	年次	人		倍	倍	年度	年度	年度	
人文科学研究科	2	15	-	30	-	-	-	-	平成14	-	
仏教文化専攻	2	5	-	10	修士(文学)	0.10	0.00	-	平成14	東京都稲城市坂浜238番地	
臨床心理学専攻	2	10	-	20	修士(心理学)	0.25	0.30	-	平成15	同上	
大学院全体	-	15	-	30	-	-	-	-	-	-	

大学の名称	駒沢女子短期大学						学生募集停止学科数	0	平均入学定員超過率1.3倍以上の学科等数	0	備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和3年度入学定員超過率	定員変更年度(AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
保育科	年	人	年次人	人	短期大学士(保育)	倍	倍	-	昭和40	東京都福城市坂浜238番地	
短期大学全体	-	130	-	260	-	-	-	-	-	-	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(専攻科及び別科を除く)。なお、調査対象の学科等が設置されている大学から順に記載してください。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
    - ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
  - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
  - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和3年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
  - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	安藤 郁子 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	安藤 郁子 (58) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	安藤 郁子 (59) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	安藤 郁子 (60) <平成30年4月> 修士(教育学)※	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 看護援助論 生活援助技術 フィジカルアセスメント 診療・治療援助技術 看護過程 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	教授	安藤 嘉則 (60) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ	専	教授	安藤 嘉則 (60) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ	専	教授	安藤 嘉則 (61) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ	専	教授	安藤 嘉則 (63) <平成30年4月> 文学修士※	仏教学Ⅰ 仏教学Ⅱ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ
専	教授	風岡 たま代 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	風岡 たま代 (60) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	風岡 たま代 (61) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専	教授	風岡 たま代 (62) <平成31年4月> 修士(教育学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅰ(概論) 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 <b>成人看護学急性期実習</b> 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	教授	杵淵(廣瀬)恵美子 (60) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	杵淵(廣瀬)恵美子 (60) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	杵淵(廣瀬)恵美子 (61) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	杵淵(廣瀬)恵美子 (62) <平成30年4月> 博士(看護学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護理論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	小林 小百合 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (55) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (56) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (57) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	小林 小百合 (58) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (58) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (58) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	小林 小百合 (58) <平成30年4月> 博士(保健学)	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅰ 老年看護学Ⅱ 地域看護活動論 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ



【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名	
専	教授	豊田 淑恵 (67) <平成30年4月> 修士(文学)※	専	教授	豊田 淑恵 (67) <平成30年4月> 修士(文学)※	専	教授	豊田 淑恵 (68) <平成30年4月> 修士(文学)※	専	教授	豊田 淑恵 (70) <平成30年4月> 修士(文学)※	専	教授	豊田 淑恵 (70) <平成30年4月> 修士(文学)※
	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	
専	教授	畠山 とも子 (65) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	専	教授	畠山 とも子 (64) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	専	教授	畠山 とも子 (65) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	専	教授	畠山 とも子 (66) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)	専	教授	畠山 とも子 (66) <平成31年4月> 博士(保健福祉学)
	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ <b>在宅看護学Ⅰ</b> 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 <b>看護研究Ⅰ</b> 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ <b>在宅看護学Ⅰ</b> 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習 <b>看護研究Ⅰ</b> 看護研究Ⅱ	
専	教授	堀 良子 (65) <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	堀 良子 (65) <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	堀 良子 (66) <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	堀 良子 (67) <平成30年4月> 博士(学術)	専	教授	堀 良子 (68) <平成30年4月> 博士(学術)
	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 看護学概論 看護理論 看護援助論 生活援助技術 診療・治療援助技術 感染看護学 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	
専	准教授	奥井 良子 (59) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)	専	准教授	奥井 良子 (59) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)	専	准教授	奥井 良子 (60) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)	専	准教授	奥井 良子 (61) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)	専	准教授	奥井 良子 (62) <平成30年4月> 修士(臨床心理学)
	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 <b>成人看護学急性期実習</b> 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 人間関係論 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 <b>成人看護学急性期実習</b> 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	



【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	武澤 千尋 (49) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	准教授	武澤 千尋 (48) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	准教授	武澤 千尋 (49) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	准教授	武澤 千尋 (50) <平成31年4月> 修士(看護学)	専	准教授	武澤 千尋 (51) <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護学概論 地域看護活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	長嶋 祐子 (46) <平成30年4月> 博士(教育学)	専	准教授	長嶋 祐子 (46) <平成30年4月> 博士(教育学)	専	准教授	長嶋 祐子 (47) <平成30年4月> 博士(教育学)	専	准教授	長嶋 祐子 (48) <平成30年4月> 博士(教育学)	専	准教授	長嶋 祐子 (49) <平成30年4月> 博士(教育学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	准教授	水野(金子)真希 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)	専	准教授	水野(金子)真希 (39) <平成30年4月> 博士(保健学)	専	准教授	水野(金子)真希 (40) <平成30年4月> 博士(保健学)	専	准教授	水野(金子)真希 (41) <平成30年4月> 博士(保健学)	専	准教授	水野(金子)真希 (42) <平成30年4月> 博士(保健学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 母性看護学Ⅱ チーム医療 母性看護学実習 看護学統合実習 国際保健 看護研究Ⅱ
専	准教授	山口 明子 (67) <平成30年4月> 修士(文学)	専	准教授	山口 明子 (67) <平成30年4月> 修士(文学)	専	准教授	山口 明子 (68) <平成30年4月> 修士(文学)	専	准教授	山口 明子 (69) <平成30年4月> 修士(文学)	専	准教授	山口 明子 (70) <平成30年4月> 修士(文学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	講師	秋田 由美 (38) <平成30年4月> 博士(看護学)	専	講師	秋田 由美 (38) <平成30年4月> 博士(看護学)	専	講師	秋田 由美 (39) <平成30年4月> 博士(看護学)	専	講師	秋田 由美 (40) <平成30年4月> 博士(看護学)	専	講師	秋田 由美 (41) <平成30年4月> 博士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ





【認可時又は届出時】			【平成30年度】			【令和元年度】			【令和2年度】			【令和3年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
												専任	准教授	令和3年度第2回 教員審査申請予定  基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 保健医療福祉行政論 地域看護学概論 公衆衛生看護学概論 地域看護学活動論 公衆衛生看護技術論 産業保健活動論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習 看護研究Ⅱ
専任	助教	上野 桂 (41) <平成31年4月> 修士(看護学)  成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習	専任	助教	上野 桂 (41) <平成31年4月> 修士(看護学)  成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 成人看護学急性期実習 看護学統合実習	専任	助教	上野 桂 (42) <平成31年4月> 修士(看護学)  基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療  基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学急性期実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ						
												専任	助教	柏木 良幸 (40) <令和3年4月> 博士(看護学)  基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学急性期実習 成人看護学慢性期実習 看護学統合実習
												専任	助教	令和3年度第1回 教員審査申請中  基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 成人看護学Ⅱ(急性期) 成人看護学Ⅲ(慢性期) チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 成人看護学急性期実習 成人看護学慢性期実習 老年看護学実習Ⅰ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
専	助教	大高 のぶえ (37) <令和2年4月> 修士(看護学)	大高 のぶえ (35) <令和2年4月> 修士(看護学)						
		公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習						
					後任未定				
					公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習		公衆衛生看護技術論 公衆衛生看護管理論 チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習		富塚 美和 (45) <令和3年4月> 修士(看護学)
									基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ チーム医療 看護学統合実習 学校・産業保健実習 公衆衛生看護学実習
									岡 京子 (43) <令和2年9月> 修士(看護学)
									基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 精神看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 精神看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
専	助教	武田 藍 (37) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (37) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (38) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (39) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (40) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (39) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (40) <平成30年4月> 修士(看護学)	武田 藍 (40) <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	
専	助教	松戸 典文 (47) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (47) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (48) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (49) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (50) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (49) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (50) <平成30年4月> 修士(人間科学)	松戸 典文 (50) <平成30年4月> 修士(人間科学)
		基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 老年看護学Ⅱ 健康と食事 チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	
専	助教	宮本 さとみ (37) <平成30年4月> 修士(看護学)							
		在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習							

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	職名
	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等		氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
			横田 益美 (52) <平成30年4月> 修士(看護学)		横田 益美 (53) <平成30年4月> 修士(看護学)		横田 益美 (54) <平成30年4月> 修士(看護学)		
		専 助教	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 在宅看護学実習 看護学統合実習	専 助教	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専 助教	基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 在宅看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ		
								専 助教	令和3年度第2回 教員審査申請予定 在宅看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 看護学統合実習
専 助教	弓気田 美香 (49) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習	専 助教	弓気田 美香 (48) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 小児看護学Ⅱ チーム医療 小児看護学実習 看護学統合実習	専 助教	弓気田 美香 (49) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ	専 助教	弓気田 美香 (50) <平成31年4月> 修士(心理学)※ 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ		
								専 助教	令和3年度第1回 教員審査申請中 基礎ゼミⅠ 基礎ゼミⅡ 小児看護学Ⅱ チーム医療 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 看護学統合実習 看護研究Ⅱ
兼任 教授	井上 浩一 (61) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学	兼任 教授	井上 浩一 (59) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学	兼任 教授	井上 浩一 (60) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学	兼任 教授	井上 浩一 (61) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学	兼任 教授	井上 浩一 (62) <令和2年4月> 栄養学士 公衆衛生学
兼任 教授	糟谷 恵次 (64) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	兼任 教授	糟谷 恵次 (65) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	兼任 教授	糟谷 恵次 (66) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	兼任 教授	糟谷 恵次 (67) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ	兼任 教授	糟谷 恵次 (68) <平成30年4月> 文学修士※ 基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任 教授	佐藤 勝重 (54) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ	兼任 教授	佐藤 勝重 (54) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ	兼任 教授	佐藤 勝重 (55) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ	兼任 教授	佐藤 勝重 (56) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ	兼任 教授	佐藤 勝重 (57) <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅱ
兼任 教授	田中 弥生 (58) <平成31年4月> 博士(スポーツ医学) 臨床栄養学	兼任 講師	田中 弥生 (57) <平成31年4月> 博士(スポーツ医学) 臨床栄養学						

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	氏名(年齢)<就任(予定)年月>保有学位等	
		担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	担当授業科目名	
				兼担 准教授	工藤 美香 (51) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	兼担 准教授	工藤 美香 (52) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	兼担 准教授	工藤 美香 (53) <平成31年4月> 修士(心身健康科学)	
					臨床栄養学		臨床栄養学		臨床栄養学	
兼担	教授	西村 一弘 (59) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼担 教授	西村 一弘 (57) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼担 教授	西村 一弘 (58) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼担 教授	西村 一弘 (59) <令和2年4月> 修士(保健学)	兼担 教授	西村 一弘 (60) <令和2年4月> 修士(保健学)
		健康と食事		健康と食事		健康と食事		健康と食事		健康と食事
兼担	教授	西山 一朗 (58) <平成30年4月> 理学博士	兼担 教授	西山 一朗 (59) <平成30年4月> 理学博士	兼担 教授	西山 一朗 (60) <平成30年4月> 理学博士	兼担 教授	西山 一朗 (61) <平成30年4月> 理学博士	兼担 教授	西山 一朗 (62) <平成30年4月> 理学博士
		生化学		生化学		生化学		生化学		生化学
兼担	教授	福王 守 (52) <平成30年4月> 修士(法学)※	兼担 教授	福王 守 (52) <平成30年4月> 修士(法学)※	兼担 教授	福王 守 (53) <平成30年4月> 修士(法学)※	兼担 教授	福王 守 (54) <平成30年4月> 修士(法学)※	兼担 教授	福王 守 (55) <平成30年4月> 修士(法学)※
		憲法		憲法		憲法		憲法		憲法
兼担	准教授	田邊 解 (42) <平成30年4月> 博士(体育科学)	兼担 准教授	田邊 解 (42) <平成30年4月> 博士(体育科学)	兼担 准教授	田邊 解 (43) <平成30年4月> 博士(体育科学)	兼担 准教授	田邊 解 (44) <平成30年4月> 博士(体育科学)		
		スポーツⅡ		スポーツⅡ		スポーツⅡ		スポーツⅡ		
									兼担 准教授	小澤 多賀子 (49) <令和3年4月> 博士(スポーツ医学)
										スポーツⅡ
兼担	講師	石川 創 (36) <平成31年4月> 修士(文学)※	兼担 准教授	石川 創 (35) <平成31年4月> 修士(文学)※	兼担 准教授	石川 創 (36) <平成31年4月> 修士(文学)※	兼担 准教授	石川 創 (37) <平成31年4月> 修士(文学)※	兼担 准教授	石川 創 (38) <平成31年4月> 修士(文学)※
		言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ		言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ		言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ		言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ		言語表現演習Ⅰ 言語表現演習Ⅱ
			兼任 講師	中尾 真樹 (54) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)	兼任 講師	中尾 真樹 (55) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)	兼任 講師	中尾 真樹 (56) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)	兼任 講師	中尾 真樹 (57) <平成31年4月> 博士(日本語日本文学)
				言語表現演習Ⅰ		言語表現演習Ⅰ		言語表現演習Ⅰ		言語表現演習Ⅰ
兼担	講師	Taron Plaza (48) <平成30年4月> Master of Arts in TES (米国)								
		英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)								
兼担	講師	Morris Jonathan Paul (39) <平成30年4月> 博士(文学)								
		英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング)								
			兼担 准教授	松山 響子 (40) <平成30年4月> 修士(文学)	兼担 准教授	松山 響子 (41) <平成30年4月> 修士(文学)	兼担 准教授	松山 響子 (42) <平成30年4月> 修士(文学)	兼担 准教授	松山 響子 (43) <平成30年4月> 修士(文学)
				英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)		英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)		英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)		英語Ⅰ(リーディング) 英語Ⅱ(ライティング)
			兼任 講師	後任未定	兼任 講師	中川 梓 (31) <平成31年4月> 修士(文学)				
				英語Ⅲ(リスニング)		英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(聴解のための英会話)				
							兼任 講師	竹村 哲明 (34) <令和2年4月> 修士(文学)	兼任 講師	竹村 哲明 (35) <令和2年4月> 修士(文学)
								英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(聴解のための英会話)		英語Ⅱ(ライティング) 英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(聴解のための英会話)

【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	綾城 初穂 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (34) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (34) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語 I(リーディング) 英語 II(ライティング) 英語 III(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (30) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論
兼任	講師	横瀬 富美子 (49) <令和2年4月> 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (50) <平成30年4月> 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (70) <平成30年4月> 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (53) <平成30年4月> Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (50) <平成30年4月> 博士(文学)	人間と思想

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	綾城 初穂 (35) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (34) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (35) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語 I(リーディング) 英語 II(ライティング) 英語 III(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (28) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論
兼任	講師	横瀬 富美子 (47) <令和2年4月> 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (50) <平成30年4月> 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (70) <平成30年4月> 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (53) <平成30年4月> Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (51) <平成30年4月> 博士(文学)	人間と思想

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	綾城 初穂 (36) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (35) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (36) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語 I(リーディング) 英語 II(ライティング) 英語 III(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (29) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論
兼任	講師	横瀬 富美子 (48) <令和2年4月> 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (51) <平成30年4月> 修士(文学)	倫理学 生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (71) <平成30年4月> 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (54) <平成30年4月> Master of Arts in Education(米国)	社会学
兼任	講師	山口 圭介 (52) <平成30年4月> 博士(文学)	人間と思想

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	綾城 初穂 (37) <令和2年4月> 博士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	倉住(五十嵐)友恵 (36) <平成30年4月> 修士(心理学)※	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (37) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語 I(リーディング) 英語 II(ライティング) 英語 III(リスニング)
兼任	講師	森田 晶子 (30) <令和2年4月> 学士(看護学)	学校保健活動論
兼任	講師	横瀬 富美子 (49) <令和2年4月> 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (52) <平成30年4月> 修士(文学)	倫理学 科目削除
兼任	講師	林 大悟 (46) <令和2年9月> 博士(文学)	生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (72) <平成30年4月> 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (55) <平成30年4月> Master of Arts in Education(米国)	社会学 文化人類学
兼任	講師	山口 圭介 (53) <平成30年4月> 博士(文学)	人間と思想

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	野村 佳申 (28) <令和3年4月> 修士(教育学)	臨床心理学
兼任	講師	田代 琴美 (28) <令和3年4月> 修士(心理学)	心理学
兼任	講師	工藤 俊 (38) <平成30年4月> 博士(言語学)	英語 I(リーディング) 科目削除 英語 III(リスニング)
兼任	講師	佐藤 百合子 (57) <令和3年4月> 修士(教育学)	学校保健活動論
兼任	講師	横瀬 富美子 (50) <令和2年4月> 修士(看護学)	健康と食事
兼任	講師	上條 広高 (37) <令和2年4月> 短期大学士	健康と食事
兼任	講師	杉山 倫也 (53) <平成30年4月> 修士(文学)	倫理学 科目削除
兼任	講師	林 大悟 (47) <令和2年9月> 博士(文学)	生命倫理と法
兼任	講師	石橋 哲成 (73) <平成30年4月> 文学修士	教育学
兼任	講師	今尾 佳生 (56) <平成30年4月> Master of Arts in Education(米国)	社会学 文化人類学
兼任	講師	山口 圭介 (54) <平成30年4月> 博士(文学)	人間と思想



【認可時又は届出時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	今井 夏彦 (70) <平成30年4月> 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (71) <平成31年4月> 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (68) <平成30年4月> 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (58) <平成30年4月> Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	杉田 由仁 (58) <平成31年4月> 博士(教育学)	英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (68) <平成30年4月> 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤原 亮二 (37) <平成30年4月> Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	正木 啓子 (49) <平成31年4月> 修士(人間学)	発達心理学
兼任	講師	松木 秀明 (68) <平成31年4月> 医学博士	疫学/保健統計Ⅰ 疫学/保健統計Ⅱ 公衆衛生学
兼任	講師	鈴木 秀治 (58) <平成31年4月> 学士(教育学)	保健医療福祉行政論

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	今井 夏彦 (70) <平成30年4月> 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (70) <平成31年4月> 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (68) <平成30年4月> 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (58) <平成30年4月> Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	杉田 由仁 (57) <平成31年4月> 博士(教育学)	英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (68) <平成30年4月> 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤原 亮二 (37) <平成30年4月> Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (33) <平成31年4月> 修士(教育学)	発達心理学
兼任	講師	松木 秀明 (67) <平成31年4月> 医学博士	疫学/保健統計Ⅰ 疫学/保健統計Ⅱ 公衆衛生学
兼任	講師	鈴木 秀治 (57) <平成31年4月> 学士(教育学)	保健医療福祉行政論

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	今井 夏彦 (71) <平成30年4月> 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	戸田 哲也 (71) <平成31年4月> 文学修士	文化人類学
兼任	講師	河野 均 (69) <平成30年4月> 農学博士	基礎科学
兼任	講師	千年 篤 (59) <平成30年4月> Ph.D.(米国)	統計学
兼任	講師	江澤 美月 (54) <平成31年4月> 修士(文学)	英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (68) <平成30年4月> 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤原 亮二 (38) <平成30年4月> Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (34) <平成31年4月> 修士(教育学)	発達心理学
兼任	講師	松木 秀明 (68) <平成31年4月> 医学博士	疫学/保健統計Ⅰ 疫学/保健統計Ⅱ 公衆衛生学
兼任	講師	城所 敏英 (67) <平成31年4月> 医学士	保健医療福祉行政論
兼任	講師	渡邊 洋子 (61) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論

【令和2年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	今井 夏彦 (72) <平成30年4月> 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	河野 均 (70) <平成30年4月> 農学博士	基礎科学
兼任	講師	江澤 美月 (55) <平成31年4月> 修士(文学)	英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (70) <平成30年4月> 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤原 亮二 (39) <平成30年4月> Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (35) <平成31年4月> 修士(教育学)	発達心理学
兼任	講師	松木 秀明 (69) <平成31年4月> 医学博士	統計学 疫学/保健統計Ⅰ 疫学/保健統計Ⅱ 公衆衛生学
兼任	講師	城所 敏英 (68) <平成31年4月> 医学士	保健医療福祉行政論
兼任	講師	渡邊 洋子 (62) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	今井 夏彦 (73) <平成30年4月> 文学修士	文学への誘い
兼任	講師	河野 均 (71) <平成30年4月> 農学博士	基礎科学
兼任	講師	江澤 美月 (56) <平成31年4月> 修士(文学)	英語Ⅲ(リスニング) 英語Ⅳ(看護のための英会話)
兼任	講師	須藤 真由美 (71) <平成30年4月> 教育学士	情報と科学/情報処理
兼任	講師	藤原 亮二 (40) <平成30年4月> Master of Education in K-12 Education(米国)	スポーツⅠ
兼任	講師	尾花 真梨子 (36) <平成31年4月> 修士(教育学)	発達心理学
兼任	講師	松木 秀明 (70) <平成31年4月> 医学博士	統計学 疫学/保健統計Ⅰ 疫学/保健統計Ⅱ 公衆衛生学
兼任	講師	城所 敏英 (69) <平成31年4月> 医学士	保健医療福祉行政論
兼任	講師	渡邊 洋子 (63) <平成31年4月> 博士(医学)	保健医療福祉行政論

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
					篠崎 育子 (60) <平成31年4月> 専門学院卒	兼任 講師		篠崎 育子 (61) <平成31年4月> 専門学院卒	兼任 講師		篠崎 育子 (62) <平成31年4月> 専門学院卒
					保健医療福祉行政論			保健医療福祉行政論			保健医療福祉行政論
兼任	講師	野田 節子 (72) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	野田 節子 (72) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	野田 節子 (74) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	野田 節子 (75) <平成30年4月> 医学博士
		人体の構造と機能 I			人体の構造と機能 I			人体の構造と機能 I			人体の構造と機能 I
兼任	講師	下枝 貞彦 (52) <平成30年4月> 博士(薬学)	兼任	講師	下枝 貞彦 (52) <平成30年4月> 博士(薬学)	兼任	講師	下枝 貞彦 (53) <平成30年4月> 博士(薬学)	兼任	講師	下枝 貞彦 (54) <平成30年4月> 博士(薬学)
		臨床薬理学			臨床薬理学			臨床薬理学			臨床薬理学
兼任	講師	八十川 要平 (67) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	八十川 要平 (66) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	八十川 要平 (67) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任	講師	八十川 要平 (68) <平成31年4月> 博士(医学)
		臨床病態学			臨床病態学			臨床病態学			臨床病態学
					疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)
兼任	講師	田爪 正氣 (75) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	田爪 正氣 (75) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	田爪 正氣 (76) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	田爪 正氣 (77) <平成30年4月> 医学博士
		微生物学			微生物学			微生物学			微生物学
兼任	講師	志水 恵子 (70) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	志水 恵子 (70) <平成30年4月> 医学博士	兼任	講師	志水 恵子 (71) <平成30年4月> 医学博士			
		微生物学			微生物学			微生物学			
兼任	講師	今崎 貴生 (53) <平成30年4月> 博士(医学)									
		疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)									
兼任	講師	山内 貴雄 (52) <平成30年4月> 博士(医学)									
		疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)									
兼任	講師	三枝 陽一 (41) <平成30年4月> 博士(医学)									
		疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)									
兼任	講師	柴原 宏 (54) <平成30年4月> 博士(医学)									
		疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)									
			兼任 講師		阪上 雅史 (36) <平成30年4月> 学士(医学)	兼任 講師		阪上 雅史 (37) <平成30年4月> 学士(医学)	兼任 講師		阪上 雅史 (38) <平成30年4月> 学士(医学)
					疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)
			兼任 講師		菅 泰博 (43) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師		菅 泰博 (44) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師		菅 泰博 (45) <平成30年4月> 博士(医学)
					疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)
			兼任 講師		三宅 良彦 (70) <平成30年4月> 医学博士	兼任 講師		三宅 良彦 (71) <平成30年4月> 医学博士	兼任 講師		三宅 良彦 (72) <平成30年4月> 医学博士
					疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)			疾病と治療 I (内科総論・全身疾患)

【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名
		兼任 講師	櫻田 勉 (45) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	櫻田 勉 (46) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	櫻田 勉 (47) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	櫻田 勉 (48) <平成30年4月> 博士(医学)
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
		兼任 講師	加藤 浩之 (42) <平成30年4月> 博士(医学)						
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)						
		兼任 講師	鈴木 豪 (43) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	鈴木 豪 (44) <平成30年4月> 大学卒				
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)				
			疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)		科目削除				
		兼任 講師	山崎 宜興 (45) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	山崎 宜興 (46) <平成30年4月> 博士(医学)				
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)				
						兼任 講師	高桑 由希子 (39) <令和2年9月> 博士(医学)	兼任 講師	高桑 由希子 (40) <令和2年9月> 博士(医学)
							疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
						兼任 講師	山崎 和子 (51) <令和2年9月> 博士(医学)	兼任 講師	山崎 和子 (52) <令和2年9月> 博士(医学)
							疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
		兼任 講師	石井 聡 (40) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	石井 聡 (41) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	石井 聡 (42) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	石井 聡 (43) <平成30年4月> 大学卒
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
		兼任 講師	勝岡 由一 (39) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	勝岡 由一 (40) <平成30年4月> 博士(医学)				
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)				
						兼任 講師	岩田 鉄平 (34) <令和2年6月> 大学卒	兼任 講師	岩田 鉄平 (35) <令和2年6月> 大学卒
							疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
							疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)		疾病と治療Ⅱ(外科総論・臓器別疾患)
		兼任 講師	河原崎 宏雄 (43) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	河原崎 宏雄 (44) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	河原崎 宏雄 (45) <平成30年4月> 博士(医学)	兼任 講師	河原崎 宏雄 (46) <平成30年4月> 博士(医学)
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)
		兼任 講師	酒井 翼 (34) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	酒井 翼 (35) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	酒井 翼 (36) <平成30年4月> 大学卒	兼任 講師	酒井 翼 (37) <平成30年4月> 大学卒
			疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)		疾病と治療Ⅰ(内科総論・全身疾患)



【認可時又は届出時】		【平成30年度】		【令和元年度】		【令和2年度】		【令和3年度】	
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
	担当授業科目名								
						兼任 講師	秋山 久尚 (56) <令和2年9月> 医学博士	兼任 講師	秋山 久尚 (57) <令和2年9月> 医学博士
							疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任	講師	松久 孝行 (51) <平成31年4月> 大学卒	松久 孝行 (50) <平成31年4月> 大学卒	松久 孝行 (51) <平成31年4月> 大学卒	松久 孝行 (52) <平成31年4月> 大学卒	兼任	松久 孝行 (52) <平成31年4月> 大学卒	兼任	松久 孝行 (53) <平成31年4月> 大学卒
		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
			兼任 講師						
			松岡 摩耶 (40) <平成31年4月> 大学卒						
			疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)						
				兼任 講師		兼任 講師	大橋 洋之 (39) <令和元年9月> 大学卒	兼任 講師	大橋 洋之 (40) <令和元年9月> 大学卒
							疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
				兼任 講師		兼任 講師		兼任 講師	
			徳田 直人 (43) <平成31年4月> 博士(医学)	徳田 直人 (44) <令和元年9月> 博士(医学)	徳田 直人 (45) <令和元年9月> 博士(医学)	兼任	徳田 直人 (45) <令和元年9月> 博士(医学)	兼任	徳田 直人 (46) <令和元年9月> 博士(医学)
			疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
				兼任 講師		兼任 講師	三上 公志 (38) <平成31年4月> 博士(医学)	兼任 講師	三上 公志 (41) <令和元年9月> 博士(医学)
							疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
				兼任 講師		兼任 講師		兼任 講師	
			阿部 達之 (55) <平成31年4月> 博士(医学)	阿部 達之 (56) <令和元年9月> 博士(医学)					
			疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)	疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)					
						兼任 講師	岡田 幸法 (40) <令和2年9月> 博士(医学)	兼任 講師	岡田 幸法 (41) <令和2年9月> 博士(医学)
							疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
			兼任 講師						
			鳥居 良昭 (44) <平成31年4月> 大学卒						
			疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)						
				兼任 講師		兼任 講師	武市 梨絵 (37) <令和元年9月> 学士(理学療法学)	兼任 講師	武市 梨絵 (39) <令和元年9月> 学士(理学療法学)
							疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)		疾病と治療Ⅲ(運動神経感覚器疾患)
兼任	講師	吉原 一 (66) <平成31年4月> 医学博士	吉原 一 (65) <平成31年4月> 医学博士						
		疾病と治療Ⅳ(母性)	疾病と治療Ⅳ(母性)						
兼任	講師	野田 芳人 (61) <平成31年4月> 博士(医学)							
		疾病と治療Ⅳ(母性)							
兼任	講師	大野 勉 (65) <平成31年4月> 医学博士	大野 勉 (64) <平成31年4月> 医学博士						
		疾病と治療Ⅳ(母性)	疾病と治療Ⅳ(母性)						
		疾病と治療Ⅱ(外科)	科目削除						

【認可時又は届出時】			【平成30年度】			【令和元年度】			【令和2年度】			【令和3年度】		
専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼担・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
						兼任 講師		田中 政信 (70) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療IV(母性)	兼任 講師		田中 政信 (71) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療IV(母性)	兼任 講師		田中 政信 (72) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療IV(母性)
兼任	講師	仁志田 博司 (76) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁志田 博司 (75) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁志田 博司 (76) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁志田 博司 (77) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁志田 博司 (78) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	榑原 裕史 (52) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	榑原 裕史 (53) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	榑原 裕史 (54) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	松島 崇浩 (39) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	松島 崇浩 (40) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	松島 崇浩 (41) <平成31年4月> 学士(医学) 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	幡谷 浩史 (52) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	幡谷 浩史 (53) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	幡谷 浩史 (54) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	小川 優一 (36) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	小川 優一 (37) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	小川 優一 (38) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	絹巻 暁子 (40) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	絹巻 暁子 (41) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	絹巻 暁子 (42) <平成31年4月> 博士(医学) 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	仁後 綾子 (40) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁後 綾子 (41) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	仁後 綾子 (42) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)
						兼任	講師	伊原 崇晃 (40) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	伊原 崇晃 (41) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)	兼任	講師	伊原 崇晃 (42) <平成31年4月> 大学卒 疾病と治療V(小児)
兼任	講師	玉井 洋一 (82) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療VI(精神障害)	兼任	講師	玉井 洋一 (82) <平成31年4月> 医学博士 疾病と治療VI(精神障害)									
						兼任	講師	加藤 隆 (48) <令和元年9月> 博士(医学) 疾病と治療VI(精神障害)	兼任	講師	加藤 隆 (49) <令和元年9月> 博士(医学) 疾病と治療VI(精神障害)	兼任	講師	加藤 隆 (50) <令和元年9月> 博士(医学) 疾病と治療VI(精神障害)
兼任	講師	土屋 陽子 (64) <平成30年4月> 修士(看護学) 地域看護学概論	兼任	講師	土屋 陽子 (64) <平成30年4月> 修士(看護学) 地域看護学概論									
兼任	講師	高見 紀子 (48) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学	兼任	講師	高見 紀子 (45) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学	兼任	講師	高見 紀子 (46) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学	兼任	講師	高見 紀子 (47) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学	兼任	講師	高見 紀子 (48) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学
												兼任	講師	新村 直子 (55) <令和3年4月> 修士(看護学) 家族看護学
兼任	講師	村上 弘之 (55) <令和3年4月> 博士(医学) 医療安全	兼任	講師	村上 弘之 (52) <令和3年4月> 博士(医学) 医療安全	兼任	講師	村上 弘之 (53) <令和3年4月> 博士(医学) 医療安全	兼任	講師	村上 弘之 (54) <令和3年4月> 博士(医学) 医療安全	兼任	講師	村上 弘之 (55) <令和3年4月> 博士(医学) 医療安全

【認可時又は届出時】

【平成30年度】

【令和元年度】

【令和2年度】

【令和3年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	本館 教子 (61) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	堤 妙子 (56) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学) 看護管理学
兼任	講師	久永 加代子 (60) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	長岡 信 (45) <令和3年4月> 学士(教養学) 災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	本館 教子 (58) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	堤 妙子 (53) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学) 看護管理学
兼任	講師	久永 加代子 (57) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	長岡 信 (42) <令和3年4月> 学士(教養学) 災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	本館 教子 (59) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	堤 妙子 (54) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学) 看護管理学
兼任	講師	久永 加代子 (58) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	長岡 信 (43) <令和3年4月> 学士(教養学) 災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	本館 教子 (60) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	堤 妙子 (55) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学) 看護管理学
兼任	講師	久永 加代子 (59) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	長岡 信 (44) <令和3年4月> 学士(教養学) 災害看護学

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	本館 教子 (61) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	堤 妙子 (56) <令和3年4月> 修士(看護マネジメント学) 看護管理学
兼任	講師	久永 加代子 (60) <令和3年4月> — 看護管理学
兼任	講師	長岡 信 (45) <令和3年4月> 学士(教養学) 災害看護学

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
  - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
- その上で、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。**
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
  - ・ 年齢は、**それぞれの年度の5月1日時点の満年齢**を記入してください。
  - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
  - ・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 畠山卓也講師の就任を実習先との事前調整業務を行う為、平成31年4月から平成30年4月に変更。
- ・ 山本撰子講師就任辞退の為、飯塚麻紀准教授に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 宮本さとみ助教就任辞退の為、横田益美助教に変更「平成30年2月教員審査済」。
- ・ 横田益美助教の科目追加：基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ「平成30年8月教員審査済」。
- ・ 田中弥生兼担教授退職の為、兼担から兼任講師に変更。
- ・ 石川創兼担講師の昇格により、講師から准教授に変更。
- ・ 「言語表現演習Ⅰ」の授業内容の充実を図る為、中尾真樹兼任講師を追加。
- ・ Taron Plaza兼担講師、Morris Jonathan Paul兼担講師の配置転換により、「英語Ⅰ（リーディング）」「英語Ⅱ（ライティング）」の担当を、松山響子兼担准教授に変更。
- ・ 綾城初穂兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 倉住（五十嵐）友恵兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 工藤俊兼任講師が平成30年4月から本学に着任した為、兼担に変更。
- ・ 正木啓子兼任講師の就任辞退により、「発達心理学」の担当を尾花真梨子兼任講師に変更。
- ・ 今崎貴生兼任講師（医師）、山内貴雄兼任講師（医師）、三枝陽一兼任講師（医師）、柴原宏兼任講師（医師）の「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」就任辞退に伴い、専門性の高い兼任教員（医師）を下記の通り追加し変更する。  
八十川要平兼任講師（医師）、阪上雅史兼任講師（医師）、菅泰博兼任講師（医師）、三宅良彦兼任講師（医師）、櫻田勉兼任講師（医師）、加藤浩之兼任講師（医師）、鈴木豪兼任講師（医師）、山崎宜興兼任講師（医師）、石井聡兼任講師（医師）、勝岡由一兼任講師（医師）、河原崎宏雄兼任講師（医師）、酒井翼兼任講師（医師）、富永直人兼任講師（医師）、横川雅敏兼任講師（医師）、以上14名。
- ・ 大野勉兼任講師（医師）の「疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）」就任辞退に伴い、専門性の高い兼任教員（医師）を下記の通り追加し変更する。  
坂本三樹兼任講師（医師）、小島康幸兼任講師（医師）、丸島秀樹兼任講師（医師）、近田正英兼任講師（医師）、鈴木豪兼任講師（医師）、近藤春裕兼任講師（医師）、以上6名
- ・ 「疾病と治療Ⅲ（運動神経感覚器疾患）」の授業内容の充実を図る為、専門性の高い兼任教員（医師）を下記の通り追加する。  
松岡摩耶兼任講師（医師）、徳田直人兼任講師（医師）、三上公志兼任講師（医師）、阿部達之兼任講師（医師）、鳥居良昭兼任講師（医師）、以上5名。
- ・ 野田芳人兼任講師（医師）の就任辞退により、「疾病と治療Ⅳ（母性）」の担当を近藤春裕兼任講師（医師）に変更。

【令和元年度】

- ・ 武澤千尋准教授の科目追加：保健医療福祉行政論、地域看護学概論「平成31年2月教員審査済」。  
※「地域看護学概論」は土屋陽子兼任講師と変更する。
- ・ 秋田由美講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 近藤浩子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 高山奈美講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 畠山卓也講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 松尾真規子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 村田友紀子講師の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 池田絹代助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 上野桂助教の科目追加：基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護研究Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 大高のぶえ助教の就任辞退の為、削除。
- ・ 武田藍助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 松戸典文助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 横田益美助教の科目追加：基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護研究Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 弓気田美香助教の科目追加：基礎ゼミⅠ、基礎ゼミⅡ、基礎看護学実習Ⅰ、基礎看護学実習Ⅱ、看護研究Ⅱを追加「令和元年8月教員審査済」。
- ・ 田中弥生兼任講師の就任辞退の為、工藤美香兼担准教授に「臨床栄養学」の担当を変更。
- ・ Taron Plaza兼担講師、Morris Jonathan Paul兼担講師の配置転換により、「英語Ⅲ（リスニング）」の担当を江澤美月兼任講師、中川梓兼任講師に変更。
- ・ 杉田由仁兼任講師就任辞退により、「英語Ⅳ（看護のための英会話）」の担当を江澤美月兼任講師、中川梓兼任講師に変更。
- ・ 鈴木秀治兼任講師の「保健医療福祉行政論」就任辞退に伴い、より専門性の高い兼任講師を下記の通り追加し変更する。  
城所敏英兼任講師（東京都南新宿検査・相談室長）、渡邊洋子兼任講師（東京都多摩立川保健所 所長）、篠崎育子（前・南多摩保健所企画調整課 地域保健推進担当課長）。
- ・ 加藤浩之兼任講師（医師）の就任辞退に伴い、「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」の担当を、石井聡兼任講師（医師）に変更。
- ・ 鈴木豪兼任講師（医師）の就任辞退に伴い、「疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）」の担当を勝岡由一兼任講師（医師）に変更。
- ・ 松岡摩耶兼任講師（医師）、鳥居良昭兼任講師（医師）の就任辞退に伴い、「疾病と治療Ⅲ（運動神経感覚器疾患）」の担当を大橋洋之兼任講師（医師）、武市梨絵兼任講師（理学療法士）に変更。
- ・ 吉原一兼任講師（医師）、大野勉兼任講師（医師）の就任辞退により、「疾病と治療Ⅳ（母性）」の担当を田中政信兼任講師（医師）に変更。



- ・「疾病と治療Ⅴ（小児）」の授業内容の充実を図る為、専門性の高い兼任教員（医師）を下記の通り追加する。  
榑原裕史兼任講師（医師）、松島崇浩兼任講師（医師）、幡谷浩史兼任講師（医師）、小川優一兼任講師（医師）、  
絹巻暁子兼任講師（医師）、仁後綾子兼任講師（医師）、伊原崇晃兼任講師（医師） 以上7名。
- ・玉井洋一兼任講師（医師）の就任辞退により、「疾病と治療Ⅵ（精神障害）」の担当を加藤隆兼任講師（医師）に変更。

### 【令和2年度】

- ・風岡たま代教授の科目追加：成人看護学急性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・小林優子教授の科目追加：成人看護学慢性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・關優美子教授辞任の為、戸村ひかり講師に変更「令和2年2月教員審査済み」。
- ・令和2年4月 滝島紀子教授就任「令和2年2月教員審査済み」。
- ・畠山とも子教授の科目追加：在宅看護学Ⅰ、看護研究Ⅰ「令和2年2月教員審査済み」。
- ・奥井良子准教授の科目追加：成人看護学急性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・長嶋祐子准教授の科目追加：成人看護学急性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・近藤浩子講師の科目追加：成人看護学急性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・飯塚麻紀准教授の科目追加：成人看護学慢性期実習「令和2年5月教員審査済み」。
- ・池田絹代助教の科目追加：老年看護学実習Ⅰ「令和2年5月教員審査済み」。
- ・上野桂助教辞任により、削除。
- ・令和2年9月 岡京子助教就任「令和2年5月教員審査済み」。
- ・横田益美助教の科目追加：老年看護学実習Ⅰ「令和2年5月教員審査済み」。
- ・中川梓兼任講師辞任により、「英語Ⅲ(リスニング)」、「英語Ⅳ(看護のための英会話)」の担当を竹村哲明兼任講師に変更。
- ・上條広高兼任講師を「健康と食事」のオムニバス担当に追加。
- ・杉山倫也兼任講師が「生命倫理と法」の担当を辞任したことにより、担当を林大悟兼任講師に変更。
- ・戸田哲也兼任講師辞任により、「文化人類学」の担当を今尾佳生兼任講師に変更。
- ・千年篤兼任講師辞任により、「統計学」の担当を松木秀明兼任講師に変更。
- ・鈴木豪兼任講師（医師）、山崎宜興兼任講師（医師）の辞任により、「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」の担当を高桑由希子兼任講師（医師）、山崎和子兼任講師（医師）に変更。□
- ・勝岡由一兼任講師（医師）の辞任により、「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」「疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）」の担当を岩田鉄平兼任講師（医師）に変更。□
- ・横川雅敏兼任講師（医師）の辞任により、「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」の担当を鳥飼主人兼任講師（医師）に変更。
- ・高野靖悟兼任講師（医師）の辞任により、「疾病と治療Ⅱ（外科総論・臓器別疾患）」の担当を保刈岳雄兼任講師（医師）に変更。
- ・梅沢武彦兼任講師、阿部達之兼任講師辞任により、「疾病と治療Ⅲ（運動神経感覚器疾患）」の担当を大嶋理兼任講師（医師）、秋山久尚兼任講師（医師）、岡田幸法兼任講師（医師）に変更。

### 【令和3年度】

- ・風岡たま代教授辞任により削除。令和3年第1回目の教員審査で、同領域の教授・准教授による担当科目の変更及び助教を1名追加審査中。
- ・畠山とも子教授辞任の為、南部泰士教授に変更「令和3年2月教員審査済み」。
- ・池田絹代助教辞任により削除。後任人事については令和3年度第2回目の教員審査に准教授を申請予定。
- ・令和3年4月 柏木良幸助教就任「令和3年2月教員審査済み」。
- ・令和3年4月 富塚美和助教就任「令和3年2月教員審査済み」。
- ・横田益美助教辞任により削除。後任人事については令和3年度第2回目の教員審査に助教を申請予定。
- ・弓気田美香助教辞任により削除。後任人事については令和3年度第1回目の教員審査へ助教を申請中。
- ・田邊兼担准教授、退職の理由により、「スポーツⅡ」を小澤多賀子兼担准教授に変更。
- ・綾城初穂兼担講師辞任の為、「臨床心理学」を野村佳申兼任講師に変更。
- ・倉住友恵兼担准教授が育児休暇取得の理由により、「心理学」を今年度は田代琴美兼任講師に変更。
- ・工藤俊兼担講師が育児休暇取得の理由により、「英語Ⅱ（ライティング）」を今年度は竹村哲明兼任講師に変更。
- ・森田晶子兼任講師が育児休暇取得の理由により、「学校保健活動論」を今年度は佐藤百合子兼任講師に変更。
- ・「家族看護学」の授業内容の充実を図るため、新村直子兼任講師を追加。

- (注) ・ 変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
  - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
  - ・ なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
  - ・ 不要な年度（令和元年度開設であれば平成30年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時 における設置基準上の 必要教授数
11 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
11	5	9	7	32	2	10	6	9	5	30	5
(6)	(4)	(6)	(4)	(20)	(3)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
10	6	9	5	30	5	10	7	9	8	34	2
[ Δ1 ]	[ +1 ]	[ — ]	[ Δ2 ]	[ Δ2 ]	[ — ]	[ Δ1 ]	[ +2 ]	[ +1 ]	[ +1 ]	[ +2 ]	[ — ]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、( ) 内に開設時の状況を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）  
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[ ] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65 歳	4 名	4 名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。  
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{30}{32} = \boxed{93.75} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{30} = \boxed{13.33} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{5}{2} = \boxed{250} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	講師	山本 摂子	H29.10	必修	基礎ゼミⅠ	①	H29.10 一身上の都合により就任辞退（30）			
				必修	基礎ゼミⅡ	①				
				必修	成人看護学Ⅱ（急性期）	①				
				必修	成人看護学Ⅲ（慢性期）	①				
				選択	チーム医療	①				
				必修	成人看護学急性期実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
2	助教	宮本 さとみ	H29.04	必修	在宅看護学Ⅱ	①	H29.04 一身上の都合により就任辞退（30）			
				選択	チーム医療	①				
				必修	在宅看護学実習	①				
				必修	看護学統合実習	①				
3	助教	大高 のぶえ	H31.04	選択	公衆衛生看護技術論	③	H31.04 家庭の事情により就任辞退（31）			
				選択	公衆衛生看護管理論	③				
				選択	チーム医療	①				
				必修	看護学統合実習	①				
				選択	学校・産業保健実習	①				
合計（D）		後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）		
3	人	必修	11	科目	必修	11	科目	必修	0	科目
		選択	7	科目	選択	5	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	16	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。  
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	關 優美子	R2.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R2.03.31付 一身上の都合により辞任（2）
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	在宅看護学Ⅰ	①	
				必修	在宅看護学Ⅱ	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅰ	①	
必修	看護研究Ⅱ	①					

2	助教	上野 桂	R2.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R2.03.31付 家庭の事情により辞任(2)
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	成人看護学Ⅱ(急性期)	①	
				必修	成人看護学Ⅲ(慢性期)	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	成人看護学急性期実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
3	教授	風岡 たま代	R3.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R3.03.31付 一身上の都合により辞任(3)
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	成人看護学Ⅰ(概論)	①	
				必修	成人看護学Ⅱ(急性期)	①	
				必修	成人看護学Ⅲ(慢性期)	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	成人看護学急性期実習	①	
				必修	成人看護学慢性期実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
4	教授	畠山 とも子	R3.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R3.03.31付 一身上の都合により辞任(3)
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	在宅看護学Ⅰ	①	
				必修	在宅看護学Ⅱ	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅰ	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
				5	助教	池田 絹代	
必修	基礎ゼミⅡ	①					
選択	公衆衛生看護学概論	③					
選択	公衆衛生看護学技術論	③					
選択	公衆衛生看護学管理論	③					
選択	チーム医療	①					
必修	基礎看護学実習Ⅰ	①					
必修	基礎看護学実習Ⅱ	①					
必修	老年看護学実習Ⅰ	①					
必修	看護学統合実習	①					
選択	学校・産業保健実習	①					
選択	公衆衛生看護学実習	①					
必修	看護研究Ⅱ	①					
6	助教	弓気田 美香	R3.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R3.03.31付 一身上の都合により辞任(3)
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	小児看護学Ⅱ	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	小児看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	
7	助教	横田 益美	R3.03	必修	基礎ゼミⅠ	①	R3.03.31付 一身上の都合により辞任(3)
				必修	基礎ゼミⅡ	①	
				必修	在宅看護学Ⅱ	①	
				選択	チーム医療	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅰ	①	
				必修	基礎看護学実習Ⅱ	①	
				必修	老年看護学実習Ⅰ	①	
				必修	在宅看護学実習	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護研究Ⅱ	①	

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
7 人	必修	58 科目	必修	58 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	12 科目	選択	9 科目	選択	0 科目	選択	3 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	70 科目	計	67 科目	計	0 科目	計	3 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)					
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
10 人	必修	69 科目	必修	69 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	19 科目	選択	14 科目	選択	0 科目	選択	5 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	88 科目	計	83 科目	計	0 科目	計	5 科目

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D)+(F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{10}{32} = \boxed{31.25} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 令和2年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

人

- (注) ・ (3) -①、(3) -②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。

(3) -⑥ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況  
**該当なし**

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
合計			後任補充状況の集計					
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0 人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。  
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び( )書きで報告年度を記入してください。  
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」</li> <li>・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」</li> <li>・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」</li> </ul> |
|---|

#### (4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

山本撰子講師は平成30年4月の就任予定であったが、平成29年10月、一身上の都合により就任辞退となった為、後任補充として、平成30年4月に飯塚麻紀准教授が就任した（平成30年2月のAC教員資格審査済み）。学生へは、平成30年度の開学時に配付したシラバス・時間割表において周知を行った。

宮本さとみ助教は平成30年4月の就任予定であったが、平成29年4月、一身上の都合により就任辞退となった為、後任補充として、平成30年4月に横田益美助教が就任した。その後、令和3年3月に、横田助教も一身上の都合により辞任した為、更なる後任補充として令和3年度第2回のAC教員審査にて助教を申請予定である。当該教員が担当する科目については演習部分の共同担当、もしくは実習である為、第2回目のAC教員審査結果が出るまでは同科目の共同担当者が担当する。学生へは、平成30年度開学時及び令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

大高のぶえ助教は令和2年4月の就任予定であったが、平成31年4月、家庭の事情により就任辞退となった為、後任補充として令和3年4月に富塚美和助教が就任し（令和3年2月AC教員審査済み）更に、令和3年度第2回のAC教員審査にて准教授を申請する予定である。学生へは令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

關優美子教授は令和2年3月、一身上の都合により辞任となった為、後任補充として令和2年4月に戸村ひかり講師が就任した（令和2年2月のAC教員資格審査済み）。關教授がオムニバスで担当する科目であった「看護研究Ⅰ」については、同じく令和2年2月のAC教員資格審査にて、島山とも子教授が「可」の判定を受け担当したが、令和3年度からは新たに着任した南部泰士教授が担当する（令和3年2月AC教員審査受審済み）。その他の科目においては、南部教授、戸村講師が教員審査受審済みの上、共同で担当する。学生へは令和2年度及び令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

上野桂助教は令和2年3月、家庭の事情により辞任した為、後任補充として令和3年4月に柏木良幸助教が就任した。上野助教がオムニバスで担当する「成人看護学Ⅱ（急性期）」においては、小林優子教授及び飯塚麻紀准教授が令和2年8月のAC教員資格審査済みの上、担当しており、その他の共同担当科目においては柏木助教及び、他の共同担当で担当する。学生へは令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

風岡たま代教授は令和3年3月、一身上の都合により辞任した。当該教員が担当するオムニバス部分については現在、令和3年度第1回目のAC教員審査に同領域の小林優子教授と飯塚麻紀准教授を科目担当の変更で申請を行っている。これにより学生に不利益が生じないよう、授業の順番を配慮し、初回授業で授業計画変更の周知を行い学生には説明を行った。共同で担当している科目に関しては、他の共同担当教員が補うが更に令和3年度第1回目のAC教員審査にて助教を追加審査中である。

島山とも子教授は令和3年3月、一身上の都合により辞任した為、後任補充として令和3年4月に南部泰士教授が就任した（令和3年2月のAC教員審査資格審査済み）。学生へは令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

池田絹代助教は令和3年3月、一身上の都合により辞任した。後任補充として令和3年度第2回目AC教員審査に准教授を追加申請する予定である。池田助教が担当する科目は全て演習部分の共同担当であった為、前期開講科目（「公衆衛生看護学概論」「公衆衛生看護技術論」共に履修者10名程度）は共同担当者の武澤千尋准教授が助手を補助につけて行っている。学生へは令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

弓気田美香助教は令和3年3月、一身上の都合により辞任した為、後任補充として令和3年度第1回目のAC教員審査にて助教を審査中である。当該教員が担当する科目については全て演習の共同担当もしくは実習である為、第1回目のAC教員審査結果が出るまでは他の共同担当で担当する。学生へは令和3年度の開学時に、シラバス、時間割及び、オリエンテーションで周知を行った。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

## 6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成29年)</p>	<p>保健師教育課程を希望する学生に対する履修指導については、学生に不利益が生じないように履修指導（履修科目や選抜方法の説明）を早期（入学時点等）に行うよう努めること。</p>	<p>【平成30年度報告】            新入生ガイダンス期間中、平成30年4月4日（水）の教務関連の説明において入学時配付資料の「履修ガイド2018(P. 41)」を指し示しながら、保健師課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明した。            さらに看護師教育課程と保健師教育課程の履修計画表を配付し、保健師教育課程を希望する学生の履修に不利益を生じないように履修指導を実施した。</p> <p>【令和元年度報告】            入学時に配付する履修ガイドの内容の見直しを行い、保健師教育課程に該当する記述を学生に分かりやすく整理した。平成31年4月4日（木）の新入生オリエンテーション時に履修ガイドの当該ページを元に、保健師教育課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明した。2年生においても、平成31年4月1日（月）の新年度オリエンテーションで前述について改めて説明を行った。また、今年度も継続して学生全員に履修計画表を配付し保健師教育課程を希望する学生の履修に不利益を生じないように履修指導を行った。</p> <p>【令和2年度報告】            入学オリエンテーション及び新年度オリエンテーションが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった為、WEB上にてオリエンテーション資料及び履修計画表を掲出し、履修ガイドの当該ページを元に、保健師教育課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明を行った。履修指導は学部共有の履修指導用メールで指導を行っている。</p>	<p>今後も、新入生と2年生を対象に新年度オリエンテーション時に説明会を実施し、アドバイザーグループの担当教員の指導の元、保健師教育課程を希望する学生に履修指導を努めていく。</p>
		留意事項	履行済

			<p>【令和3年度報告】 令和3年4月2日（金）の新入生オリエンテーション時に履修ガイドの当該ページを元に、保健師教育課程の履修科目と具体的な選抜方法について説明した。また、今年度も継続して学生全員に履修計画表を配付し保健師教育課程を希望する学生の履修に不利益を生じないよう履修指導を行った。</p> <p>・別添資料1 「履修ガイド2021(P.30～31)」</p> <p>・別添資料2 ①1年次履修計画表（*看護師・保健師国家試験受験資格取得希望者）</p> <p>・別添資料3 ②2年次履修計画表（*看護師・保健師国家試験受験資格取得希望者）</p>		
設置計画履行状況調査時 (平成30年)	・入学定員超過の改善に努めること。(人間総合学群心理学類)	指摘事項 (改善)	・昨年度入学定員超過率が1.42倍であったのを、本年度1.18倍に是正した。	履行済	・入学定員の是正に引き続き努めていく。
設置計画履行状況調査時 (令和元年)	・入学定員超過の改善に努めること。(人間総合学群心理学類)	指摘事項 (改善)	・昨年度入学定員超過率が1.18倍であったのを、本年度1.08倍に是正した。	履行済	・入学定員の是正に引き続き努めていく。

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
  - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
  - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
  - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。



## 7 その他全般的事項

### <看護学部 看護学科>

#### (1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
<p>【令和元年度報告】</p> <p>1. 設置の趣旨－11. 管理運営の変更</p> <p>(4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために以下の小委員会を置く。(※：独自の委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教務小委員会</li> <li>② 実習委員会 ※</li> <li>③ 学生小委員会</li> <li>④ 研究倫理小委員会</li> <li>⑤ 国家試験対策小委員会 ※</li> <li>⑥ 人権擁護（ハラスメントを含む）小委員会 ※</li> <li>⑦ 広報小委員会</li> <li>⑧ 図書小委員会</li> </ul>	<p>看護学部における円滑な管理運営を行えるよう、組織編成を見直し、下記のように各組織名を改めた。</p> <p>(4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために、以下のように関連委員会を統合した看護学部部会を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教務部会（教務・学修支援/実習）</li> <li>②学生支援部会（学生支援・相談/ボランティア）</li> <li>③図書部会</li> <li>④国家試験対策支援部会</li> <li>⑤就職・進学対策支援部会</li> <li>⑥国際交流部会（交流/留学）</li> <li>⑦人権擁護部会（学生/教職員）</li> <li>⑧研究支援部会（研究倫理審査/研究紀要/研究企画）</li> <li>⑨入試・広報部会（入試/広報・大学案内/共通試験）</li> <li>⑩将来構想部会</li> <li>⑪点検・評価・改善部会</li> <li>⑫教員人事部会</li> </ul>
<p>【令和2年度報告】</p> <p>1. 学事日程の変更について</p>	<p>「令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知）」（元文科高第1259号）に基づき、弾力的な授業運用に変更した。令和2年度の授業は5月18日に開始予定とし、12週の遠隔授業と3週分の課題授業を実施し、15週相当の授業実施に変更した。本件について、教務委員会を通じて全学的に認識を共有し、全学生に対してはKOMAJOポータルを通じて周知を徹底した。</p>
<p>2. 設置の趣旨－11. 管理運営の変更</p> <p>(4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために以下の小委員会を置く。(※：独自の委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 教務小委員会</li> <li>② 実習委員会 ※</li> <li>③ 学生小委員会</li> <li>④ 研究倫理小委員会</li> <li>⑤ 国家試験対策小委員会 ※</li> <li>⑥ 人権擁護（ハラスメントを含む）小委員会 ※</li> <li>⑦ 広報小委員会</li> <li>⑧ 図書小委員会</li> </ul>	<p>令和元年度の変更報告から更に、「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」改正に伴い、令和4年度入学生（第5期生）よりカリキュラムの変更を行う為、将来構想部会を新カリキュラム検討部会に改め令和2年4月に発足し、組織編成を行った。</p> <p>(4) 看護学部におけるその他の委員会 看護学部の運営を円滑に行うために、以下のように関連委員会を統合した看護学部部会を置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①教務部会（教務・学修支援/実習）</li> <li>②学生支援部会（学生支援・相談/ボランティア）</li> <li>③図書部会</li> <li>④国家試験対策支援部会</li> <li>⑤就職・進学対策支援部会</li> <li>⑥国際交流部会（交流/留学）</li> <li>⑦人権擁護部会（学生/教職員）</li> <li>⑧研究支援部会（研究倫理審査/研究紀要/研究企画）</li> <li>⑨入試・広報部会（入試/広報・大学案内/センター入試）</li> <li>⑩新カリキュラム検討部会</li> <li>⑪点検・評価・改善部会</li> <li>⑫教員人事部会</li> </ul>

<p>【令和3年度報告】</p> <p>1. 授業形態の変更について</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、令和3年度前期の授業について、対面授業と遠隔授業（オンライン授業）を併用することに変更し開始した。本件について、教務委員会を通じて全学的に認識を共有し、全学生に対しては3月のオリエンテーション、KOMAJOPータルを通じて周知を徹底した。</p>
<p>2. 保健師教育課程実習（選択）の単位数・開講期の変更について</p> <p>1) 公衆衛生看護学実習 ・単位数：3単位 ・開講期：4年次後期</p> <p>2) 学校・産業保健実習 ・開講期：4年次後期</p>	<p>1) 公衆衛生看護学実習 ・単位数：4単位（2023年度から変更） ・開講期：4年次通年（2022年度から変更）</p> <p>2) 学校・産業保健実習 ・開講期：4年次通年（2022年度から変更）</p> <p>保健師教育課程の実習における2023年度以降の実習受入れについて、現在受け入れ先となっている日野市・稲城市からの強い勧めもあり、学生にとってより有意義な保健師活動である保健所での実習経験を積むことができるよう東京都のシステムに加入することとした。その為、東京都のシステムに合わせて実習が行えるよう、単位数の1単位増加と開講期の変更を行う。</p> <p>今後の予定としては、今年度（令和3年）5月の教授会での承認を得て、文部科学省医学教育課へ変更届出を提出する。学生に不利益が生じないように、選抜試験実施（2年次3月）前の1年次後期並びに2年次後期に保健師教育課程選抜に関する説明会を開催し、履修指導を行う予定である。</p> <p>尚、変更に関しては、事前に文部科学省大学設置室及び文部科学省医学教育課へ相談の上、ご指導を頂いた上でやっている。</p>
<p>3. コロナ禍の影響による開講期の一部変更 家族看護学（開講期：4年次後期）</p>	<p>家族看護学（開講期：4年次前期）</p> <p>新型コロナウイルス感染症の後期開講時の感染状況が不透明なことから、4年次後期開講の「家族看護学」を今年度限り、開講科目が少ない前期に変更して開講した。後期の授業時間割に余裕ができた為、コロナ禍による影響があっても速やかに時間割の調整を行い対応する。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

## (2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

### ① 実施体制

#### a 委員会の設置状況

これまで、本学では、教員の資質の維持、改善、向上を図るための組織として「点検・評価・改善委員会」を置いてきたが、令和元年4月1日付で、新たに「自己点検評価委員会」を設置した。従来の「点検・評価・改善委員会」は点検・評価の主に実務を遂行する委員会であるのに対して、「自己点検評価委員会」は、大学全体の自己評価を担当する。

両委員会は全学的な組織である。「点検・評価・改善委員会」は、学群長、各学部長、各教授会より選出された若干の委員、及び事務職員、「自己点検評価委員会」は、学長、副学長、学務部長、学生部長、研究科長、学群長、各学部長、事務局長、事務部長、点検・評価・改善委員会委員長、各教授会より選出された若干の委員、及び事務職員により構成される。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

1. 点検・評価・改善委員会は、基本的に月の第3木曜日、自己点検評価委員会が必要に応じて開催している。

2 a. 平成29年度の開催状況を以下に記す。

- ・平成29年 4月20日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年 5月18日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員7名、職員1名、以上11名出席
- ・平成29年 6月15日 委員長、人文学部長、他教員6名、職員1名、以上9名出席
- ・平成29年 10月19日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年 11月16日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成29年 12月21日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員6名、職員1名、以上10名出席
- ・平成30年 1月18日 委員長、人文学部長、人間健康学部長、他教員5名、職員1名、以上9名出席

2 b. 平成30年度の開催状況を以下に記す。

- ・平成30年 4月19日 委員長、学群長・学部長2名、他教員9名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 5月17日 委員長、学群長・各学部2名、他教員9名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 6月14日 委員長、学群長・学部長1名、他教員9名、職員2名、以上14名出席
- ・平成30年 7月19日 委員長、学群長・学部長1名、他教員10名、職員2名、以上15名出席
- ・平成30年 9月20日 委員長、学群長・学部長1名、他教員10名、職員1名、以上14名出席
- ・平成30年 10月18日 委員長、学群長・学部長1名、他教員8名、職員2名、以上13名出席
- ・平成30年 11月15日 委員長、学群長・学部長1名、他教員11名、職員2名、以上16名出席
- ・平成30年 12月20日 委員長、学群長・学部長1名、他教員9名、職員2名、以上14名出席
- ・平成30年 1月17日 委員長、学群長・学部長1名、他教員8名、職員1名、以上12名出席

2 c. 令和元年度の開催状況を以下に記す。

点検・評価・改善委員会

- ・平成31年 4月18日 委員長、学群長・学部長3名、他教員10名、職員2名、以上16名出席
- ・令和元年 5月16日 委員長、学群長・学部長2名、他教員12名、職員2名、以上17名出席
- ・令和元年 6月20日 委員長、学群長・学部長0名、他教員12名、職員2名、以上15名出席
- ・令和元年 7月18日 委員長、学群長・学部長2名、他教員12名、職員2名、以上17名出席
- ・令和元年 9月20日 委員長、学群長・学部長3名、他教員12名、職員2名、以上18名出席
- ・令和元年10月17日 委員長、学群長・学部長3名、他教員12名、職員2名、以上18名出席
- ・令和元年11月21日 委員長、学群長・学部長2名、他教員11名、職員2名、以上16名出席
- ・令和元年12月19日 委員長、学群長・学部長2名、他教員11名、職員2名、以上16名出席
- ・令和2年 1月16日 委員長、学群長・学部長2名、他教員11名、職員2名、以上16名出席
- ・令和2年 2月20日 委員長、学群長・学部長2名、他教員11名、職員2名、以上16名出席

自己点検評価委員会

- ・平成31年 1月31日 規程で指定された委員等、11名出席
- ・平成31年 4月18日 規程で指定された委員等、12名出席
- ・令和元年 8月29日 規程で指定された委員等、10名出席（他に同席7名）
- ・令和元年 9月 5日 規程で指定された委員等、12名出席（他に同席9名）
- ・令和2年 1月 9日 規程で指定された委員等、11名出席（他に同席2名）

2 d. 令和2年度の開催状況を以下に記す。

点検・評価・改善委員会

- ・令和2年 4月10日 委員長・学群長・学部長4名、他教員 9名、職員2名、以上15名出席
- ・令和2年 5月21日 委員長・学群長・学部長4名、他教員 9名、職員2名、以上15名出席
- ・令和2年 6月18日 委員長・学群長・学部長4名、他教員 9名、職員2名、以上15名出席
- ・令和2年 7月16日 委員長・学群長・学部長4名、他教員 9名、職員2名、以上15名出席
- ・令和2年10月15日 委員長・学群長・学部長3名、他教員 9名、職員2名、以上14名出席
- ・令和2年11月19日 委員長・学群長・学部長2名、他教員10名、職員2名、以上14名出席
- ・令和2年12月17日 委員長・学群長・学部長3名、他教員 9名、職員2名、以上14名出席
- ・令和3年 1月21日 委員長・学群長・学部長3名、他教員 9名、職員2名、以上14名出席
- ・令和3年 2月18日 委員長・学群長・学部長4名、他教員 9名、職員2名、以上15名出席

自己点検評価委員会

- ・令和3年 3月19日 規程で指定された委員等、10名出席

c 委員会の審議事項等

1. 自己点検・評価報告書の作成と認証機関（大学基準協会）への提出
2. 授業アンケート、学内公開授業、卒業年次アンケートの実施
3. FD・SD活動の実施、FD分科会の統括
4. 学群・学類、学部・学科等が行うFD活動の支援
5. FD活動の企画・実施・評価、及び情報の収集と提供
6. 研究費傾斜配分 等

## ② 実施状況

### a 実施内容

1. 学内公開授業
2. ファカルティ・ディベロップメント
3. 教育研究業績記録の作成

### b 実施方法

#### 1. 学内公開授業

本学では、前期と後期に各1回、2週間にわたり、専任教員を中心とした学内授業公開期間を設けている。参観者は、見学した授業に対する意見書を自己の名前を付して提出する。

#### 2. ファカルティ・ディベロップメント

本学では、「点検・評価・改善委員会」が中心となり、教職員を対象としたFD研修会を、毎年1回もしくは2回実施する。FD研修会は、専任教員全員参加を原則とし、終了後の報告（アンケート）を義務付ける。さらに、学類、学科の枠をこえ、類似する専門分野の教員が集まり、よりよい授業への改善を目的に、独自のFD分科会（必修英語の研究・第二外国語分科会・ICT教育検討会等）を展開させている。平成29年度は15、平成30年度は22、令和元年度は24、令和2年度は21の分科会が稼働した。分科会の1年間の成果は、年度末に教育研究支援課に提出され、記録を保管している。

#### 3. 教育研究業績記録の作成

本学では、全専任教員が教育研究業績を毎年度更新している。これは、所定の形式にのっとり、「教育実践上の主な業績」「作成した教科書・教材・参考書」「教育活動上特記すべき事項」「研究活動」「学会等社会における主な活動」等の項目をまとめ、年度末に提出するというものである。教員は、これを、教育内容の見直しを図るための一助として活用している。

### c 開催状況（教員の参加状況含む）

#### 1 a. 学内公開授業（平成29年度実績）

##### 前期

人文学部 公開授業総数156、参観者総数64名      人間健康学部 公開授業総数45、参観者総数16名  
（参考 兼任講師 公開授業総数19 参観者総数8名）

##### 後期

人文学部 公開授業総数13 参観者総数64名、      人間健康学部 公開授業総数42 参観者総数16名  
（参考 兼任講師 公開授業総数5 参観者総数5名）

#### 1 b. 学内公開授業（平成30年度実績）

##### 前期（平成30年6月11日～6月23日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数143 参観者総数110名  
人間健康学部 公開授業総数29 参観者総数7名      看護学部 公開授業総数0 参観者総数0名  
（参考 兼任講師 公開授業総数19 参観者総数9）

##### 後期（平成30年11月19日～12月1日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数127 参観者総数81名  
人間健康学部 公開授業総数28 参観者総数4名      看護学部 公開授業総数18 参観者総数7名  
（参考 兼任講師 公開授業総数11 参観者総数8名）

#### 1 c. 学内公開授業（令和元年度実績）

##### 前期（令和元年6月10日～6月22日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数151 参観者総数126名  
人間健康学部 公開授業総数42 参観者総数13名      看護学部 公開授業総数24 参観者総数23名  
（参考 兼任講師 公開授業総数28 参観者総数11名）

##### 後期（令和元年11月25日～12月7日）

人文学部・人間総合学群 公開授業総数133 参観者総数102名  
人間健康学部 公開授業総数37 参観者総数16名      看護学部 公開授業総数16 参観者総数10名  
（参考 兼任講師 公開授業総数 14 参観者総数 7名）

#### 1 d. 学内公開授業（令和2年度実績）

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、遠隔授業が主であったため、学内の授業公開は実施できなかった。

2a. ファカルティ・ディベロップメント（平成29年度実績）

1. 平成29年6月29日

研修会講演 五味洋一「大学における障害学生への合理的配慮を考える2」

参加状況 人文学部 専任教員64名中59名出席 5名（録画視聴） 全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員16名中13名出席 3名（録画視聴） 全員アンケート提出

2. 平成30年2月15日

研修会講演 中谷隆文「変わりゆく高校の指導現場と大学の今後」

田上慧子「今日の高校における教育環境・学習内容と高大接続」

参加状況 人文学部 専任教員64名中58名出席 出席者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員16名中13名出席 出席者全員アンケート提出

3. 平成30年3月8日（2月15日不参加者がいたため再度同内容で開催、ただし講演者1名）

研修会講演 田上慧子「変わりゆく高校の指導現場と大学の今後」

田上慧子「今日の高校における教育環境・学習内容と高大接続」

参加状況 人文学部 専任教員不参加者6名中4名出席 出席者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員不参加者3名中1名出席 出席者全員アンケート提出  
再開不参加者 3名中2名資料を読みアンケート提出、3名中1名体調不良により完全不参加

2b. ファカルティ・ディベロップメント（平成30年度実績）

1. 平成30年7月26日

研修会講演 芝田剛志「SNSリスク対策研修会」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中55名出席、5名（録画視聴）、産休・休職2名  
参加者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員16名中11名出席、5名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出  
看護学部 専任教員22名中22名出席 出席者全員アンケート提出

2. 平成31年12月13日、12月20日（同一内容）

研修会講演 富士原光洋「シラバス作成と学修指針」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中59名出席、講演者1名、産休・休職2名  
出席者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員16名中16名出席 アンケート提出15名（1名未提出）  
看護学部 専任教員22名中20名出席、育休2名 出席者全員アンケート提出

3. 平成31年2月14日

研修会講演 小川誠・富士原光洋「アセスメント・ポリシーと学修成果の把握」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員62名中54名出席、講演者2名、産休・休職2名  
校務欠席4名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員16名中13名出席、2名（録画視聴）、1名欠席  
参加者全員アンケート提出  
看護学部 専任教員22名中18名出席、1名（録画視聴）、1名欠席、育休2名  
参加者全員アンケート提出

2c. ファカルティ・ディベロップメント（令和元年度実績）

1. 令和元年7月25日

研修会講演 MS & ADアビリティワークス株式会社事業部マネージャー 山口綾子  
「困難を抱える学生のキャリア支援を考えるー大学教職員にできることー」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員61名中57名出席、2名（録画視聴）、育休・休職2名  
参加者全員アンケート提出  
人間健康学部 専任教員17名中12名出席、5名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出  
看護学部 専任教員31名中28名出席 3名（録画視聴） 参加者全員アンケート提出

2. 令和2年2月13日

研修会テーマ 駒沢女子大学におけるアクティブ・ラーニングの事例

研修会発表 倉住友恵（人間文化学類） 大規模講義「恋愛の心理学」

藤城有美子（心理学類） 中規模講義「臨床心理学概論」

杉野知恵（観光文化学類） 小規模講義「国際貢献論」

参加状況 人文学部・人間総合学群 専任教員60名中53名出席、録画DVD視聴7名  
アンケート提出60名  
人間健康学部 専任教員17名中16名出席 録画DVD視聴1名  
アンケート提出17名  
看護学部 専任教員31名中29名出席、録画DVD視聴1名  
アンケート提出30名

## 2d. ファカルティ・ディベロップメント（令和2年度実績）

### 1. 令和3年2月18日～3月4日 点検・評価・改善委員会主催 オンライン開催

研修会テーマ	令和2年度遠隔授業（GSE）運用の総括と次年度活用に向けて	
研修会発表	畠山卓也（看護学部）	
参加状況	人文学部・人間総合学群	専任教員57名中54名参加、育休・休職2名、1名不参加 アンケート提出54名
	人間健康学部	専任教員17名中17名参加、0名不参加 アンケート提出17名
	看護学部	専任教員32名中31名参加、1名不参加 アンケート提出31名

### 2. 令和3年2月18日～3月4日 学生相談室・学生支援課共催 オンライン開催

研修会テーマ	遠隔授業下における学生支援	
研修会発表	学修支援センター所長 橋本衆宝（人間健康学部）	
	進路総合センター部長代理 河内秀雄	
	保健室看護師 藤井亜季	
	学生相談室カウンセラー 浅川恵理	
参加状況	人文学部・人間総合学群	専任教員57名中57名中54名参加、3名不参加 アンケート提出54名 ※不参加3名のうち2名は年度末退職者、1名は育休
	人間健康学部	専任教員17名中16名参加、1名不参加 アンケート提出16名 ※不参加1名は年度末退職者
	看護学部	専任教員32名中29名参加、3名不参加 アンケート提出29名 ※不参加3名は年度末退職者

## 2e. FD分科会（看護学教育に関する検討会）

### 【平成30年度実績】

#### 1. 平成30年9月6日（木）15：30～16：15

伝達講習：テーマ「看護におけるシミュレーション教育」

1) 「呼吸音聴診」セミナー参加報告（長嶋）

2) 「看護過程に活かすシナリオシミュレーション」研修参加報告（奥井）

参加者：安藤嘉則、小林小百合、豊田淑恵、堀良子、飯塚麻紀、奥井良子、長嶋祐子、山口明子、門脇淳子、菊地由美、近藤浩子、畠山卓也、松尾真規子、池田絹代、武田藍、松戸典文、横田益美、祖父江かおり、田中あゆみ、福森利智子、佐久間祐子（看護学部専任教員20名、職員1名）

#### 2. 平成30年9月13日（木）13：50～14：30

伝達講習：テーマ「看護系大学教育等の動向」

1) 「専門職大学等の制度化」研修会参加報告（水野）

2) 「平成29年度課題別地域保健推進プラン報告会」参加報告（池田）

参加者：杵淵恵美子、小林小百合、關優美子、豊田淑恵、堀良子、飯塚麻紀、奥井良子、長嶋祐子、水野真希、山口明子、秋田由美、門脇淳子、菊地由美、畠山卓也、松尾真規子、池田絹代、武田藍、松戸典文、横田益美、祖父江かおり、田中あゆみ、福森利智子、永淵絵里香（看護学部専任教員22名、職員1名）

#### 3. 平成31年1月6日（水）13：00～14：30

伝達講習：テーマ「看護系大学教育等の動向（2回目）」

1) 「IRを大学運営・看護教育にどう生かしていくか」研修会参加報告（長嶋・佐久間）

2) 「私立看護系大学におけるグローバルな人材育成一地域における活動を中心に」研修会参加報告（水野）

3) 「教員用看護師国家試験対策」研修会参加報告（畠山（卓））

4) 「看護基礎教育検討会を踏まえた在宅看護の今後と現場に及ぼす影響」学会参加報告（横田）

参加者：安藤嘉則、杵淵恵美子、小林小百合、關優美子、豊田淑恵、堀良子、飯塚麻紀、奥井良子、長嶋祐子、水野真希、山口明子、門脇淳子、菊地由美、近藤浩子、畠山卓也、松尾真規子、松戸典文、横田益美、祖父江かおり、田中あゆみ、福森利智子、佐久間祐子、永淵絵里香（看護学部専任教員21名、職員2名）

### 【令和元年度実績】

#### 1. 令和元年7月25日（木）10：00～12：00

テーマ：各看護領域の演習内容の紹介

目的：各看護学領域代表者の発表と意見交換

各看護7領域の授業方針として、主に演習内容（技術演習・看護過程）を紹介し合うことを通し、共通理解を図るきっかけとする。

参加者：豊田淑恵、安藤嘉則、安藤郁子、堀良子、門脇淳子、菊池由美、祖父江かおり、田中あゆみ、杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、高橋泉、山口朋子、秋田由美、弓気田美香、風岡たま代、奥井良子、長嶋祐子、飯塚麻紀、近藤浩子、上野桂、小林小百合、村田有紀子、武田藍、松戸典文、畠山卓也、松尾真規子、長澤清隆、關優美子、畠山とも子、武澤千尋、池田絹代、横田益美、佐久間祐子（34名）

2. 令和元年8月8日（木）13:00～15:30

<伝達講習1>

テーマ：保健師教育の現状

目的：全国保健師教育機関協議会 2019年度提示社員総会・春季研修会参加報告「保健師教育の動向」

<伝達講習2>

テーマ：ワールド・カフェ「看護実践能力とは？」

目的：領域を超えたメンバー間の意見交換を通し、本学部の目指す看護実践能力についての考えを共有するとともに、相互に交流すること。

参加者：豊田淑恵、安藤嘉則、安藤郁子、堀良子、門脇淳子、菊池由美、祖父江かおり、田中あゆみ、杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、高橋泉、山口朋子、秋田由美、弓気田美香、風岡たま代、奥井良子、長嶋祐子、飯塚麻紀、近藤浩子、上野桂、小林小百合、村田有紀子、武田藍、松戸典文、畠山卓也、松尾真規子、長澤清隆、關優美子、畠山とも子、横田益美、武澤千尋、池田絹代、永淵絵里香（34名）

3. 令和2年3月10日（木）9:30～12:00

テーマ：各領域の看護過程を中心とした演習内容の共通理解と課題の検討

目的：各看護学領域の看護過程を中心とした演習内容を紹介し合うことを通して、共通理解を図るとともに、効果的な授業方針について検討する機会とする。

参加者：豊田淑恵、安藤嘉則、安藤郁子、堀良子、門脇淳子、菊池由美、田中あゆみ、杵淵恵美子、水野真希、高山奈美、高橋泉、山口朋子、秋田由美、弓気田美香、風岡たま代、小林優子、奥井良子、長嶋祐子、近藤浩子、小林小百合、村田有紀子、武田藍、松戸典文、畠山卓也、松尾真規子、畠山とも子、横田益美、武澤千尋、池田絹代、飯塚麻紀、永淵絵里香（31名）

【令和2年度実績】

1. 令和2年3月17日（水）10:00～12:30

テーマ：COVID-19感染症が学生の看護実践能力の修得に及ぼした影響を考える。

目的：2020年2月より、COVID-19感染症の感染拡大に伴い、従来予定されていた講義・演習および臨地実習が影響を受け、学習方略の大幅な変更及び中止を余儀なくされた。そこで、2021年度の講義・演習、実習に向けて、各学年における学生の看護実践能力修得における課題を学部教員間で共有し、学生が看護実践能力を高めていくための教育方法を検討する機会とする。

参加者：杵淵恵美子、小林小百合、小林優子、高橋 泉、豊田淑恵、堀 良子、飯塚麻紀、奥井良子、武澤千尋、長嶋祐子、水野真希、山口明子、秋田由美、高山奈美、戸村ひかり、畠山卓也、松尾真規子、村田友紀子、岡京子、近藤浩子、武田藍、松戸典文、田中あゆみ（専任助手）、長澤清隆（専任助手）、野村美紀（非常勤助手）、佐久間祐子（事務職員）

開催方法：GSE Meetによるオンライン開催

2 f. 看護学部実習分科会（実習指導者研修会の実施）

【令和元年度実績】

1. 令和元10月19日（土）14:50～16:30

目的：看護教員と実習指導者の、看護の質向上や実習指導のスキル向上を図ることを目的とする。

対象：看護学部教員、看護学部実習施設で実習にかかわる臨床指導者

（研修内容）

①厚生労働省の「看護基礎教育検討会」報告書の概要についての説明

②看護技術教育に焦点を当てた、現場での工夫や課題に関する検討会（グループワーク）

（参加者）：計52名（学外23名、学内教員29名）

【令和2年度実績】

新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した。

3. 教育研究業績記録の作成

平成29年度：人文学部、人間健康学部、専任教員全員提出。

平成30年度：人間総合学群、人文学部、人間健康学部、看護学部、専任教員全員提出。

令和元年度：人間総合学群、人文学部、人間健康学部、看護学部、専任教員全員提出。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

1. 学内公開授業

参観のあった授業担当者は、参観者からの意見書を他者評価として受け取り、授業改善に活用する。この制度は、参観者が自己の授業を改善するきっかけとしての役割も果たしている。令和2年度については、新型コロナウイルス感染症蔓延により、オンライン授業が主体であったため、学内公開授業は開催できなかった。令和3年度は、オンラインでの学内公開授業を実施していく。

2. ファカルティ・ディベロップメント

平成29年度：前期研修会を通して、障害学生への支援の取り組み改善を促進させた。また、後期研修会を通して、本年度開設された人間総合学群の教育全般にわたる準備を図ることができた。

平成30年度：前期研修会を通して、学生のSNSリスク対策への取り組みができた。また、後期の2度の研修会を通して、シラバス、アセスメント・ポリシー等、教育の質保証にかかわる内容について、認識を深めることができた。

令和元年度：前期研修会を通して、精神的な困難を抱える学生の就職支援に対する取り組みについて学んだ。後期は、アクティブ・ラーニングの実例を介して、この方法が学生にどのような教育効果をもたらしているのか等を具体的に知ることができた。

令和2年度：後期の遠隔授業の事例と課題の発表を通じて、今後の本学のICT教育のあり方や、学生にどのような教育効果をもたらしているのか等を具体的に知ることができた。

3. 教育研究業績記録の作成の成果

教育研究業績記録を作成することで、自己の教育研究の見直しを図る機会を得た。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

本学では、前期と後期の終わりに各1回、全学的な授業アンケートを実施し、その結果に基づく自己評価報告書の作成を全専任教員に義務づけている。アンケートの項目は、学生自身の学修状況を問う3項目を含め、合計13項目で構成される。教員の授業内容を問う10項目のうち、5段階評価で3.0に満たない項目がある授業に関しては、評価が低かった原因を分析したうえで、報告書に改善計画を付記しなければならない。令和元年度以降は原則として全授業に対して授業アンケートを行う予定である。

令和元・2・3年度追記：当該年度より、ポータルサイトを利用し、原則として全授業に対して授業アンケートを実施することになった。教員は授業評価結果を受け、サイト上で「点検評価」を記入する。また、アンケートの対象項目で3.0未満（5点満点）がある場合は、「改善計画」の項目が自動的に表示され、併せての記入がうながされる。本年度より、学習指針について問う項目を設けた。これにより、シラバスで示される学習指針（ディプロマ・ポリシーに沿った学修の目的）と、学生が自覚する学習成果との整合性が検証できる。令和2年度も継続して、KOMAJOポータルを利用し、原則として全授業に対して授業アンケートを実施した。

b 教員や学生への公開状況、方法等

授業アンケートの結果をとりまとめた報告書は、本学図書館で教職員と学生に公開している。随時閲覧が可能である。また、全体集計はホームページにも掲載している。

(注)・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし



#### (4) 自己点検・評価等に関する事項

##### ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

###### 1. 入学生確保

入学生確保に向けて看護学部看護学科紹介の大学案内冊子、リーフレットの作成、大学ホームページの更新、教職員の高校訪問、オープンキャンパスの開催などにおいて、教育の特色・内容とアドミッション・ポリシーを入学希望者へ周知するよう努めた。

平成30年度：本年度の入学試験結果は、入学志願者579名、入学者90名、定員充足率が112.5%であった。この数値は、看護学部の開学年度として十分な広報活動ができなかったが、入試センターの尽力や既存学部の知名度により、入学志願者の確保ができた。次年度も引き続き入学志願者を減少させないよう広報活動を充実させていく。なお、推薦入試での合格者に対しては、入学前課題として基礎的な共通科目（国語・数学）の冊子を作成し郵送した。また、小論文課題として課題図書5冊のうち2冊を選び、課題に沿って小論文作成し、提出後に添削して返却した。

令和元年度：本年度の入学志願者372名、入学者78名、定員充足率97.5%であった。その内訳は、推薦入学試験入学者35名、一般入学試験入学者29名、センター試験利用入学試験入学者14名であった。この結果から、前年度の入学志願者より大幅に減少したことについては、前年度の定員充足率を考慮し、合格者数の定員増とならないよう合格ラインの基準を高め設定した結果、入学試験結果上位の一般入学試験合格者の終盤辞退に繋がり、入学生確保の達成に至らなかった。

次年度に向けて、入学志願者数を増やすよう高校訪問やオープンキャンパスにおいて看護学部の魅力を発信できるよう、看護学部教員総勢24名で積極的に広報活動に参加し、充実させていく。

なお、本年度の推薦入試合格者に対しては、前年度の入学前課題としての基礎的な共通科目（国語・数学）に新たに生物・化学の科目を追加提示した。この2教科は1年生で学修する「人体の構造と機能」の授業を理解しやすいようにするため導入を試みた。小論文課題としては前年度同様に課題図書5冊のうち2冊を選び、課題に沿って小論文作成し、提出後に添削して返却した。このことは入学前より事前に文章力の弱い学生を把握することができ、入学後に基礎ゼミやアドバイザー教員によるサポートや学修支援センターの活用を促すことに繋げていく。また、入学式当日には保護者会を開催した。事前に入学式のご案内とともに保護者会の参加可否を事前に把握し、学部長により全体説明後にアドバイザーグループごとに分かれて、全体説明を受け、さらに個別の疑問・質問等にアドバイザー教員が対応し、必要時、学部長がラウンドして補足説明をした。この結果、保護者同士の関係作りができ、4年間学生と保護者のサポートをする担当2名の教員との関係性も作られた。このことは、入学後も責任をもって少人数制による学生支援を卒業まで行うことによる安心感と信頼感を双方で確認でき、高校への報告などによる今後の入学生確保に良い影響を与えることにつながっている。

令和2年度：コロナ感染の拡大により、入学式の挙行は中止となった。そのため、保護者会の開催準備を行っていたが、実施中止となった。しかし、昨年度に増して、今年度の入学志願者は381名であり、入学者88名、定員充足率110%であった。内訳は推薦試験入学者52名、一般試験入学者32名、センター試験利用入学者4名であった。この結果から、看護学部への受験者が定着しつつあることが伺え、入学生の確保の達成ができたと言える。

その一方で入学後の遠隔授業への切り替わりにより、学生や保護者との関係性を築くために3学年の保護者全員へアンケート実施をおこなった。その結果、特にコロナ感染拡大による対面授業から遠隔授業になったことで、保護者からは主に次のような不安のあることを把握した。①学習能力の低下の懸念 ②仲間との直接交流の場がないことへの精神面への不安 ③学内での技術演習や臨地実習の中止などによる看護師としての技術・知識修得への不安など。そこで、保護者への不安軽減のために学長及び学部長より看護学部ホームページに「アンケートの回答」を掲載した。入学後の学生や保護者、また在校生やその保護者それぞれの立場における不安軽減に努め、またご意見については真摯に受け止め、安心して遠隔授業を受けることができるよう学習環境に努めた。と同時に入試センターと協力し、看護学部の教育状況を逐次掲載することで、入学者の確保に努めた。

令和3年度：本年度入学者は、歩留まりの予想が外れ、定員割れの68名であった。受験状況を見る限り、志願者数382名であり、昨年同様の倍率2.0を維持する合格者数を算出した。しかし、3月に入り一気に辞退者が増え、一般入試合格者から24名の辞退があった。過去3年間において入学定員超過とならないよう入試センターと十分検討し、歩留まり率はほぼ予想通りの定員を満たしてきたため、補欠合格を設けていなかった。今年度は、コロナ禍における受験者の動向把握が難しかったことがあるが、辞退者の内訳は次のようであった。①医学部併設の附属病院をもつ大学6割 ②地方の国公立大学2割 ③専門学校ほか2割であった。この結果から、コロナ禍の影響により受験者及び保護者にとって経済的負担を軽減できる大学や感染拡大に伴う附属病院をもつ大学に入学することの安心感などが伺えた。今後の対策としては、予備校等の情報はもちろんのこと、社会の動きとそれに伴う受験者・保護者の心理的・経済的要素をも踏まえて予測・分析に努める。特に、次年度においては「補欠合格者」を設けることで、定員割れを防ぎ、確実なる入学者確保に努める。

## 2. 新入生オリエンテーション

平成30年・令和元年ともに4月2日～5日の4日間にわたり、新入生オリエンテーションをおこなった。内容は、本学の建学の精神、教育理念、看護学部の目的と特色、教育課程の編成、学生生活全般について説明するとともに、専任教員の紹介、看護学部実習館の施設見学を実施した。また、授業の準備として、現在の学力を再確認するための基礎学力テスト、習熟度別英語クラス分けテストを入学者全員に課した。その他、臨地実習の概要と抗体価検査の必要性、健康診断の実施、白衣の採寸、アドバイザーグループ教員との顔合わせおよび新入生歓迎会を実施した。

令和元年においては、新たに就任教員が増え総勢31名となったことで、新入生オリエンテーションと共にアドバイザーグループごとに分かれ、保護者との懇親会を実施した。保護者懇親会を入学式後に実施することで、アドバイザー教員にとっては保護者の考え方や、経済状況、学生の家庭内や高校までの学習姿勢・生活習慣や健康状況などの情報を入学時から把握することができ、大学生生活の一步を順調に踏み出せるよう学生一人一人への適切なサポート準備ができること、また保護者にとっては学修や生活支援を4年間通して継続担当する教員と知り得たことによる安心感、いつでも相談できる関係づくりができたこと、さらに懇親会終了後に保護者同士がアドレス交換などをおこなう様子を伺い知ることができたことで、教員と保護者だけでなく保護者間の関係づくりにも貢献できたことが示された。次年度も入学式終了後の新入生オリエンテーション実施と併せて保護者懇親会を充実させていく。

令和2年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、中止となり、オリエンテーションは、教務委員並びに学生支援委員により遠隔操作（GSE）と、大学ポータルサイトを用いて実施した。また、入学初期のころは自宅あるいは下宿先に端末機器の準備ができない学生もいたため、紙媒体でのオリエンテーション内容を郵送して対応した。今年度は対面授業でできるだけ授業展開を計画していたが、緊急異常事態宣言の発令により今後も学生の学習環境や生活状況などを定期的に確認しフォローする計画を立てている。

令和3年度は、昨年度のリモートでのオリエンテーション内容をより充実させ、各学年担当教員を教務部会メンバーから選出し、事前に準備をおこなった。また、入学者には入学手続きの際に個人用ノート型パソコンの準備依頼をしていたためスムーズにリモートでのオリエンテーションが実施できた。また、保護者へは入学時に保護者懇談会の実施ができないため、事前に学部長が看護学部の概要、学科主任はアドバイザー制の役割やカリキュラム履修などについて準備をおこない、入学後に学生への説明内容を保護者には、看護学部のホームページよりyoutube配信を試みた。また在校生の保護者には、学生支援部会より4年間継続となるアドバイザーグループごとの担当教員と連絡を取り、心配事の相談など適切に対応する旨を、学生へのガイダンスで説明され、学生ともどもフォローされている。リモートによる授業を通して、保護者も自宅で学生と一緒に参加していることが把握できているため、ガイダンスにおいても、このことを加味して行うことで教員側の努力も見られ、かつ保護者と教員との良い関係性が見受けられている。

## 3. 初年次教育

平成30年度：看護学部では、本学の建学の精神に基づいた「仏教学Ⅰ」「人間と思想」を初年度に必修科目とした。また大学で学ぶことの意義を学習し各自が考え、疑問を持つことの重要性を学ぶために「基礎ゼミⅠ」「基礎ゼミⅡ」を初年次教育の柱として設定した。「基礎ゼミⅠ」はアカデミック・スキルのテキストを用い、大学で学ぶ意義、授業の受け方、講義ノートのとり方、本の読み方、資料の探し方、小論文の書き方、討論や口頭発表の仕方、グループ活動の進め方、大学の学修に必要な基本技術等を学ぶと同時に、大学生活になじみ、有意義に過ごせるようにするためにキャンパスツアーをゼミグループ（1グループ6名の15グループ編成）で一緒に行った。「基礎ゼミⅡ」では、研究の基礎となるよう自らの問題意識を持つようにし、その課題に向けて文献検索、まとめ、グループ内で発表・討論をおこない、最終各自がレポート作成とした。必修の英語は、読んで理解し、また書いて表現できるよう習熟度別の3クラスで編成した。初年次教育においては、選択科目として教養を身につけるための14科目を自由選択として取り入れた。本年度の選択科目の履修状況はバランスがとれたが、保健師教育課程における必修科目「情報と科学/情報処理」「統計学」「スポーツⅠ・Ⅱ」「憲法」の履修希望者は多く見られた。

基礎専門科目の『健康と医療』区分においては、「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「生化学」「臨床薬理学」「微生物学」「疾病と治療Ⅰ（内科総論・全身疾患）」を1年次から開講した。これは身体の構造と機能に関心を持てるように、また日常生活における清潔・不潔や感染予防の意義、薬の効用や服用の危険性など身近な内容から学べるような科目設定をした。本年度は学部に先輩がいないことから授業内容の理解不足と学ぶことの重要性や危機感が弱いことなど、定期試験の結果で明らかになった。一方、臨床施設からの医師たちの講義は臓器別で5・6名によるオムニバス形式で展開のため、十分な予・復習をしないと理解できないことがあり、専門領域の看護教員が授業に入ることで授業内容の確認ができた。この結果を踏まえ、初年次教育として専門基礎科目担当の非常勤講師には、授業評価アンケートに学生からの自由記述も含めて郵送すると同時に電話、メール等で次年度へ向けた講義内容の検討をおこなった。

専門科目における『看護の基本』区分では、「看護学概論」「看護援助論」「生活援助技術」を講義と学内演習により看護学の早期関心へと導き、また専門基礎科目と結び付けて理解を容易にして学修できるよう1年次に設定した。本年度は基礎看護学実習Ⅰを実施のため、学生たちは看護の基本となる基礎的な知識確認と基本的な看護技術練習を学内で主体的に実施した。「看護援助論」と「生活援助技術」の学内演習においては、2つの演習科目のつながりをどのようにしたら初学者が関心をもち、自主的に演習に取り組むことができるかなど、教員間で試行錯誤しながら実施した。その結果、基礎看護学実習Ⅰでは、欠席学生はなく、のびのびと積極的に臨床実習に臨み、実習目的を達成できた。

令和元年：前年度と同様の初年次教育ではあるが、前年度の履修ガイダンスで1年次に履修可能な科目の単位修得を強調して指導したことで、2年次開講の選択科目を履修する学生に偏りが見られ、「文化人類学」の履修者がゼロであった。この結果は、教養科目を重要な位置づけとしている看護学部を設置趣旨を再認識し、次年度の履修ガイダンスでバランスのとれた無理のない履修計画を立てること、また一般教養の履修の必要性を十分説明し、丁寧に選択科目の履修計画が立てられるよう説明内容を再考していく。本年度は、看護専任教員の増加により、初年次教育をよりさらに充実して実施できるよう看護専任教員間での教育方法と評価の検討や、非常勤講師会の開催企画などを実施していく。

本年度は、専門基礎科目の医学系教員の授業については、専任看護教員で担当を決め、学生にとって理解しやすい内容の精選がなされ、特にパワーポイントの枚数制限（90分授業で100枚以上を提示しない、など）確認などをおこなった。しかし、定期試験では、昨年度とさほど変わらない状況であった。

令和2年：前期がすべて遠隔授業（online, on demand）を主として実施しているので、どの程度授業に関心を持ち積極的に勉学に励んだかどうかは、画面の裏側まで把握ができていない。討議などは積極的に参加しているように伺えるが、これから、いつごろから対面授業を進めていくか、初年度教育は、コミュニケーションづくりとしても大切であり、かつ大学で学ぶことの意義を考えつつ自ら行動する基盤づくりを大切にしているため、早々に対面授業（特に1年時の学内技術演習）とを取り入れるようにする。

尚、8月～9月は、昨年1年生で実施できなかった「基礎看護学実習Ⅰ」を実施する。また同時期に2年生の「老年看護学実習Ⅰ」を実施する。また後期からは3年生が初めての臨地実習に臨むが、実習施設側で感染者を受け入れた場合は、実習中止を告げられる可能性がある。万一来備え、学内で臨地実習に準じた演習ができるよう準備をする。

令和3年：今年度は対面授業で開始する準備を始めていたが、やはりコロナの収束が見られないため、遠隔授業としてスタートとなった。授業形態においては、昨年などに試行錯誤しながら経験しているため、対面切り替えにいつまでも大丈夫なように科目担当教員は準備をしている。看護学部においては、1・2年次生の学内技術演習は対面でおこない、3・4年生の臨地実習は、実習施設からの中止がない限り、嚴重なる感染予防対策をおこない実施する方針で施設側と了承を得ている。

今年度は本学部初めての国家試験受験の年度であるため、できる限り4年次生には実習において状況設定を理解できるよう各教員が指導し、また座学においては、事例を通してながら知識の確認を行っていくよう準備をしている。

#### 4. 教員組織の編成

本学部において、専任看護学教員32名の就任として計画した。また年齢構成は30歳代から60歳代まで、職位に則してバランスよく配置を考えた。しかし、就任前辞退者3名、また開学2年目の2名の退職、開学3年目には5名が退職となった。退職者の後任補充は、その都度AC申請にて補充を行ってきており、令和3年度においては、在宅看護学並びに公衆衛生看護学領域がそれぞれ1名欠員のため、この5月にAC申請を行う準備をしている。審査承認されると、33名の教員及び助手3名の36名体制となる。

なお、今後の教員構成における将来計画として次のように考えている。定年規程に定める退職年齢を超える専任教員が、次年度基礎看護学領域で1名おり、その補充は現在助手の昇格を検討している。また小児看護学において定年規程の特例教員1名が健康上の問題で1年前倒しで退職希望しているが、現在4名体制の小児看護学領域のため補充なくとも教育上は支障きたさないと判断。2024年以降には小児・母性看護学領域の教授が定年（65歳）を迎えるが、本学部において貴重な役割を果たしており、健康状態も問題なため定年規程の延長を考えている。さらに4年後以降から成人・基礎領域での教員補充を計画し、全体の年齢や職位のバランスを考えながら教員組織の充実を着実に実行していく予定でいる。

#### ② 自己点検・評価報告書

##### a 公表（予定）時期

- ・「自己点検・評価報告書」（駒沢女子大学 平成31年度4月）を令和2年4月30日に公表

##### b 公表方法

- ・大学ホームページ上に令和2年4月30日に公開

#### ③ 認証評価を受ける計画

- ・令和元年度に大学基準協会の評価を受けた。結果、「駒沢女子大学は本協会の大学基準に適合している」との認定を受けた。認定の機関は、2020（令和2）年4月1日から2027（令和9）年3月31日までである。

- (注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。  
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。  
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和3年度）

a 公表予定の有無 [  有 ・  無 ]

《 a で「有」の場合 》

b 公表（予定）時期 [ 調査結果公表後1ヶ月以内  公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降 ]

c 公表方法 [  ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ( ) ]

《 a で公表「無」の場合 》

d 公表しない理由 [ ]

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、  
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。

## 2. 取得可能な資格

1. 本学看護学部看護学科で取得できる資格は次の通りである。

1) 看護師国家試験受験資格

本学科の卒業要件 128 単位を修得することにより、看護師国家試験を受験することができる。

2) 保健師国家試験受験資格 (選択)

本学科の卒業要件 128 単位を満たし、かつ所定の科目の履修を含め、137 単位を修得することにより、保健師国家試験を受験することができる。

※看護師国家試験受験資格要件及び、保健師国家試験受験資格要件の詳細については、P.28 (卒業所要単位の頁)・P.36～39 (別表 1-①②の頁)を確認すること。

## 3. 保健師教育課程について

1. 保健師教育課程における選択必修科目は次の通りである。

なお、保健師教育課程を希望する学生は 1・2 年次に配当される選択必修科目を必ず履修すること。

### 《保健師教育課程に関する選択必修科目》

#### [1 年次]

憲法	2 単位
統計学	1 単位
情報と科学 / 情報処理	1 単位
スポーツ I	1 単位
スポーツ II	1 単位

#### [2 年次]

健康教育学	2 単位
-------	------

#### [3 年次]

学校保健活動論	1 単位
産業保健活動論	1 単位

#### [4 年次]

疫学 / 保健統計 II	2 単位
公衆衛生看護学概論	1 単位
公衆衛生看護技術技術論	2 単位
公衆衛生看護管理論	1 単位
家族看護学	1 単位
学校・産業保健実習	2 単位
公衆衛生看護学実習	3 単位
災害看護学	2 単位

2. 保健師教育課程の定員数、選抜の方法

1) 定員数は 10 名とする。

2) 選抜時期

2 年次後期

3) 選抜基準

・ GPA2.0 以上であること。

・ 2 年次までに開講されたすべての必修科目及び保健師教育課程に関する選択必修科目の単位を修得済みないし修得見込みであること。

## 4) 選抜方法

- ・ 成績
- ・ 授業中の態度や演習・実習の参加姿勢
- ・ 小論文「保健師としての将来の夢」
- ・ 面接

## 5) その他

保健師教育課程の選抜に関する詳細は2年後期に掲示等で周知する。

## 3. 保健師免許取得後、申請により取得できる免許

保健師国家試験に合格した後に、申請できる資格は次のとおりである。

養護教諭二種免許

第一種衛生管理者

## 4. 看護学部における配当年次の考え方

本学の授業科目は、それぞれ学年配当によって履修すべき学年が記されている。これは学習を最も効果的に行えるように配慮されているためである。したがって、指定された学年までにそれらの授業科目を履修しておくことが望ましい（尚、下級学年において上級学年の配当科目の履修は認められない）。

看護学部においては、学年進度により指定された年次に科目を履修し、単位修得しておかないと、P.32-5.の実習科目の履修条件が満たされず、4年間での卒業が困難となる。

V-2. 1年次履修計画表(\* **看護師・保健師** 国家試験受験資格を取得する者)

## 【履修登録時の注意点】

学籍番号		氏名	
------	--	----	--

- 必修科目: 黒字の必修科目は必ず登録すること (実習の登録忘れが非常に多いので忘れずに登録すること)  
 ※保健師教育課程を希望する学生は1・2年次に担当される選択必修科目を必ず履修すること  
 【1年次配当選択必修科目】: 憲法、統計学、情報と科学/情報処理、スポーツⅠ、スポーツⅡ
- 選択科目: 下記、時間割内の青字(選)の選択科目から履修計画し履修すること  
 ※教養教育科目の選択科目においては、1年次に卒業要件の必要単位数を修得しておくことが望ましい
- クラス分け科目: ★マークの科目はポータルサイト又は、オリエンテーション時に掲出されるクラス分け内容に従い登録すること  
 【前期対象科目】: 英語Ⅰ、基礎ゼミⅠ、情報と科学/情報処理(選択科目)  
 【後期対象科目】: 英語Ⅱ、基礎ゼミⅡ

## 2021年度 前期時間割

	月	火	水	木	金
1時限目		人間と思想	仏教学Ⅰ	(選)文学への誘い	英語Ⅰ-ka ★ 英語Ⅰ-kc ★
2時限目	統計学(前半) 基礎ゼミⅠ(後半)★	看護学概論(前半) 看護援助論(後半)		人体の構造と機能Ⅰ	英語Ⅰ-kb ★
3時限目	情報と科学/ 情報処理-ka ★	基礎ゼミⅠ(前半)★ 看護援助論(後半)	(選)心理学	微生物学	(選)基礎科学
4時限目	情報と科学/ 情報処理-kb ★	生活援助技術	憲法	スポーツⅠ	
5時限目	(選)基礎ドイツ語Ⅰ				(選)倫理学

## 2021年度 後期時間割

	月	火	水	木	金
1時限目	(選)仏教学Ⅱ		臨床薬理学	地域看護学概論	
2時限目	看護援助論 (通年)	(選)社会学	生化学	(選)基礎ドイツ語Ⅱ	基礎ゼミⅡ★
3時限目		人体の構造と機能Ⅱ	英語Ⅱ-ka ★ 英語Ⅱ-kc ★	疾病と治療Ⅰ	(選)教育学
4時限目	生活援助技術 (通年)	スポーツⅡ	英語Ⅱ-kb ★		
5時限目					
後期実習	基礎看護学実習Ⅰ				

1年次配当科目 履修単位数確認表(卒業要件、**看護師・保健師** 国家試験受験資格要件)  
 ※今年度に履修する科目の単位数を計算してみよう!

区分		1年次までの必要修得単位数		卒業要件		
		必修		必修	選択	合計
		修得必須単位数	履修計画			
教養教育科目	教養科目	7		4		必修19単位を含む 23単位以上
	コミュニケーションの理解と技能	3				
	スポーツと健康	2				
	基礎ゼミ	2				
	小計	14		4		23単位
専門基礎科目	健康と生活	—		—		必修31単位以上
	健康と医療	11				
	小計	11		—		31単位
専門科目	看護の基本	5				必修83単位以上
	ライフステージと看護	—				
	看護の統合	1		—		
	臨地実習	1				
	看護の発展	—		—		
	小計	7				
総計		32		4		133単位 4単位以上 137単位

V-2. 2年次履修計画表(\* **看護師・保健師** 国家試験受験資格を取得する者用)

## 【履修登録時の注意点】

- 必修科目: 黒太字の必修科目は必ず登録すること(◎科目は前提条件を有する科目)  
※保健師教育課程を希望する学生は1・2年次に配当される選択必修科目を必ず履修すること  
(1学年において履修できる最高単位数は48単位以下)
- 選択科目: 選択科目の卒業要件については、修得できる配当年次を意識して履修計画を立てること  
※教養教育科目の選択科目の卒業要件単位は、2年次終了時まで必要単位数を修得しておくこと
- クラス分け科目: ★マークの科目はポータルサイトに掲出されているクラス分け掲示に従い登録すること  
【前期対象科目】: 英語Ⅲ、言語表現演習Ⅰ 【後期対象科目】: 英語Ⅳ、疫学/保健統計Ⅰ
- 「成人看護学Ⅱ」は、前提条件科目を修得できなかった場合、後期に履修を取り消すこと  
【前提科目】: 生活援助技術、フィジカルアセスメント、診療・治療援助技術、成人看護学Ⅰ

## 2021年度 前期 履修計画時間割

	月	火	水	木	金	土
1時限目				看護理論	英語Ⅲ-ka ★ 英語Ⅲ-kb ★	疾病と治療Ⅱ
2時限目	(選)発達心理学		感染看護学	成人看護学Ⅰ	英語Ⅲ-kc ★	
3時限目	診療・治療 援助技術	老年看護学Ⅰ	フィジカル アセスメント	臨床栄養学	言語表現演習Ⅰ- ka/kb ★	
4時限目		保健医療福祉行政論		疾病と治療Ⅴ	臨床病態学	
5時限目		(選)文化人類学	疾病と治療Ⅳ			
前期実習	老年看護学実習Ⅰ◎					

## 2021年度 後期 履修計画時間割

	月	火	水	木	金	土
1時限目		看護過程		(選)言語表現演習Ⅱ	英語Ⅳ-ka ★ 英語Ⅳ-kb ★	疾病と治療Ⅵ
2時限目			母性看護学Ⅰ	健康教育学	英語Ⅳ-kc ★	
3時限目	疫学/保健統計 Ⅰ-ka/kb★ ※時間割は掲示確認	在宅看護学Ⅰ	成人看護学Ⅱ◎	疾病と治療Ⅲ	精神看護学Ⅰ	
4時限目		小児看護学Ⅰ			生命倫理と法	
5時限目						
後期実習	基礎看護学実習Ⅱ◎					

## 履修単位数確認表(看護師・保健師 国家試験受験資格要件)

※今年度に履修する科目の単位数を計算してみよう!

区分	2年次までの必要修得単位数						卒業要件		
	必修			選択			必修	選択	合計
	修得必須 (a+b)	修得済 (a)	履修計画 (b)	修得目標 (a+b)	修得済 (a)	履修計画 (b)			
教養教育 科目	教養科目	9			4		9単位	4単位以上	必修19単位を含む 23単位以上
	コミュニケーションの理解と技能	6					6単位		
	スポーツと健康	2					2単位		
	基礎ゼミ	2					2単位		
	小計	19			4		19単位	4単位以上	
専門基礎 科目	健康と生活	6					10単位		必修31単位以上
	健康と医療	21					21単位		
	小計	27					31単位		
専門科目	看護の基本	10					10単位		必修83単位以上
	ライフステージと看護	10					18単位		
	看護の統合	6					21単位		
	臨床実習	4					28単位		
	看護の発展						6単位		
	小計	30					83単位		
総計	76			4		133単位	4単位以上	137単位	